京城日報
十九日夕刊
(朝夕刊併せて八頁)

段總理留任經緯
進步黨系の梁湯等進退に迷ふ

馮總統が段總理の留任を許可せるは徐世昌氏が馮總統に對し今や北洋派より段氏を除かば自然首腦を失ひて四分五裂し國内の統一を維持する能はず若し段氏辭職せば後任者何處に在りや國家の爲めに段氏を去らざる可からずとて懇談其に下りて苦諫せるより馮總統も之れに其の說に動かされたりと又若し段氏にして李純、王汝賢等を使嗾し政變を惹起せしめ而も其罪を馮總統に歸せしめて反對運動を起すこともあらば形勢重大となる可きを察知せる爲めなると更に一は協商側公使團が内閣總辭職に依り國内の秩序亂れ對獨與の態度にも影響す可しとして内政干渉の端を開くやの形勢ありと看破せるにも依るなるべしされば内閣留任を決するも進步黨系の梁啓超、湯化龍等は其地位に不安を感じ進退に迷ひ居れり(北京特電)

支那政變と列國

支那政變に對する外交團の態度を見るに佛國は段内閣と歐洲出兵に關し利害の關係あるを以て留任を歡迎し英國は支那國内に動亂あるを喜ばず無事解決を希望せるが單り米國公使は段氏を郤け日本と接近するを阻止せんとし今回の政變に當りても暗中飛躍を爲せりとの說ありしが段内閣居据りを見て喜ばざるの色ありと(北京特電)

過激派ツアールスコエ、セロ占領

ケレンスキー氏の軍隊はパヴロヴスカ及びダッチナ方面に退却せり過激派はツアールスコエ、セロの占領を宣言したり(倫敦電報)

哥兵過激派死傷

アレキサンドロウスキー停車場附近の戰鬪に於ける哥薩克兵の死傷は一千五百名にして過激派の死傷二千名なりと(倫敦電報)

英艦隊敵艦追跡

英國海軍省發表=ヘルゴランドに策動中なりし我艦隊は十七日朝敵の輕巡洋艦隊と交戰せしが敵は高速力を利用して遁亡し我艦隊は目下追跡中なり(倫敦電報)

業務研究員視察

滿鐵業務研究員一行三本、横井、稻垣の三氏は營口の視察を了へて十八日來奉十九日は奉天を視察し二十日撫順に向ふ可し尙ほ一行は長春を視察し次で安奉線を巡視の上二十九日大連歸任の豫定也(奉天特電)

北京より
段内閣總辭職の前後

段總理は十五日府學胡同の私邸に各部總長以下各部要人を會して秘密會議を開き西南問題に關して討議したるが段氏は同日終に辭表を提出し其餘の閣員は十六日

▲聯帶責任を負ふて一同辭職し馮大總統は王士珍氏等を特派して一應段氏に留任を勸告せしも其辭意堅きを以て終に王士珍氏に後繼内閣組織を命じ段氏は十七日出京して天津に去れり段内閣崩壞の原因は種々あるが其最大近因は言ふ迄もなく對西南問題にて是迄段氏が武力解決策を主張し彼の馮總統は平和解決策を主張し彼の雲南討伐命令及び對廣處分の三命令の如き

▲馮總統は最後迄之れを拒絕したるも終に段氏の主張を容れざる能はざるに到りて僅に許したるも猶唐繼堯氏に對し何等の處分を與へず又陸榮廷氏に對しても能ふ限り平和手段を以て對待すべきを李耀漢及び龍濟光兩氏等に密命して共和の元老たる唐陸諸元老との決裂を避けんと勉めたり對西南策に於て馮段二氏の意見の相違せる事斯くの如きに

▲中原の大勢力たる王湖北、李江蘇、陳江西の三督軍は馮總統の意を受けて對西南妥協の中立團を組織して段總理に壓迫を加へ而して[illegible]の督軍も之に聯盟せんとするの傾向生じ來りて段氏の苦痛一方ならざる處に西南討伐の効果豫期の如くに擧らずして四川方面に於ては貴州軍が雲南軍と合同するあり、又た南北對戰の根據たる湖南に於て段氏直系の

▲傅督軍が敗軍の爲め十四日省城より遁亡するの醜態を演出し時局の武力的收拾は愈々困難となり段氏は之れに對して重大なる責任を負はざるを得ざるに至れり加之彼の兵器借款問題の如きも反段派の利用する處となりて盛に惡聲を段内閣に被らせ反段風潮は次第に國民に傳播するに至りて段内閣の立場は非常なる不利に陷る剛情一徹の段氏は其懷抱する

▲武力的國内統一策が到底馮總統と相容れざる者なるを悟て終に内閣を投げ出したる者なり段内閣崩壞の善後に就きては目下王士珍氏等專ら之れが局に當れるも斯の難局收拾は王氏一人の能くする處に非らざれば多分徐世昌氏の出山を求むるなる可く或は黎元洪氏の再出馬を見るなきを保せざる可し(十八日)

朝鮮線の滯貨と輸送力
京管運輸課長 安藤又三郎氏談

滿鐵京城管理局運輸課長安藤又三郎氏は局線滯貨數並に現況及び今後の輸送能力等につき左の如く語れり

客秋以來内地行連絡貨物は關釜連絡船及び山陽線輸送力の關係上發送數量に制限を加へ來りしが一般船腹不足の爲め鐵道便に依るもの增加し各驛滯貨は新陳代謝するのみにして夏期閑散期も遂に制限を解除するに至らず再び出荷期に向ひ漸次滯貨噸數を增加しつゝあり目下の輸送狀況を記せば

△局線各驛在貨數量

本州行(九州幡生以東行)	一〇七九噸	二四三三噸
九州門司行	一三五四噸	

外に輸送中のもの

本州行	七二七噸	一二三五噸
九州行	五〇八噸	

釜山棧橋停滯

本州行	三五八七噸	四二九四噸
九州行	七〇七噸	

△關釜及山陽線輸送力
一日一千噸(鮮滿發八〇〇噸釜山地發二〇〇噸)

內譯
定期便 一日 二五〇噸
臨時便 同 三〇〇噸
(共榮丸) 三日目 六五〇噸
(御嶽丸) 同 六〇〇噸

山陽線幡生以東一日六百噸(鮮滿發四百八十噸釜山地發百二十噸)餘り四百噸(鮮滿發三百二十噸釜山地發八十噸)は下關九州行とす

▲滯貨一掃期 關釜間連絡船の輸送力は前項の通りなるも本月一日より同十四日迄の輸送實績は風波等の障害により合計一萬一千六百五十七噸にして一日平均八百三十三噸となり豫定の輸送力に對し一割六分三厘を減せり今後豫定の數量を輸送し得るものとし一日の承認車數を左の通りなりとせば

本州行十三車(二七三噸)殘りは滿洲發及び扱に充つ
九州行十車(二一〇噸)同上

以上の割合に依る時は九州行は約三日間にして一掃し得るも本州行は之が一掃に約一箇月を要する計定となり本月十五日以降の申込のものは十二月中旬にあらざれば發送承認の運びに至らざる可し

先づ以て生産事業
川上東洋拓殖會社理事の談

慶尙忠淸各道の視察より十八日午後歸京せし川上東拓理事は曰く予は既に湖南線方面を巡り西鮮三道に行き更に今回

▲中部朝鮮を一巡して來たがそこで殘つた所は全南並に元山方面であるが何れ其内出掛けて行く考へである、今回廻つて來た慶尙忠淸の各道は八年乃至十年振りであつたが其の拓開は思つたより進んでゐた、會社が土地を所有し又移民の若干を收容せる忠北や忠南道の北部地方では會社の出張所を設けて欲しいと云ふ希望も有志から聞かぬでもなかつた、然しさうした機關より機關の新設と云ふ事より先づ生産事業を起し其の

▲起した事業により何等かの店を設くる事とせねば駄目でない、少しく注意して地方を歩けば起すべき新事業は可なりある、產物を土臺としたもの乃至は若干油をさせば必らず相當の成績を齎らすであらうと信ぜらるゝ事業もあるやうである、之等は今後出來るならば漸次起つて來るやうに仕向けたいと思ふ、更に各地を廻つて當局者からも聞き當業者からも聞き又予等も必要なりと觀ずるは水利事業である、朝鮮の米產を確實に增進さする事は此の水利計畫に待つを

▲最も有望とし又最も捷徑とするのである、會社としては今後南鮮と中鮮と西北鮮を問はず其の事業を總督府より認可され又相當の計畫が樹てば直間接の援助は敢て辭せない方針である、而して會社も必要の方面に對しては常に調査を進め計畫を怠らぬ筈だ、此行沿道散在の移民の狀態は出來得る限り視察して來た、多數の中には若干の例外は免れないけれども今年移民收容地の米作は概して上作でそれに米價が昨年より

▲余程上値だから移民の懷ろ合ひはわるくない、農作と米高この移民にとつては最も喜ぶべきものが二つ一しよに來たのであるから其の滿足せるは當然であらうそれから鮮人との折合の如きも年を閲するに伴ひ漸次よくなつて行く傾向あるは好い事だと思つた各地に於ける小作米の收納も目下盛りにやつてゐるが會社としては小作人に對し農具を貸すとか耕牛を使はすとか種子や肥料を心配してやるとかして其間の融合を圖つてゐるし又中部朝鮮の社有地作況も

▲當初豫想して居たより事實は宜しいため殆んど問題なく進行してゐる、先づ大體今年の米の成績は惡くない積りである

鮮債募入決定
現金申込は三割七分三厘 鮮銀扱ひ

十五日募集を締切りたる鮮銀扱ひの朝鮮事業公債四千五百萬圓の應募は既報の如く舊債乘換現金申込合計四百零五萬四千二十五圓の應募ありしも日本銀行の取調べに係る全國の鮮債應募は約三千二百萬圓の超過を見たるに付其募入方法は舊債乘替を優先全額募入とし現金申込は小額の分全部募入の方針にて按分比例による事となり乃ち其の方法は二十五圓以上百圓は全額募入百二十五圓以上三百五十圓以下は百圓募入三百五十圓以上は申込高の三割二分五厘募入に決し右の結果二十五圓未滿の端位を出したる時は四捨五入する事となりしに付鮮銀にては二百十五萬千六百二十五圓の新債乘替を全部募入とし百九十萬四百圓の現金申込みに對しては七十一萬零九百二十五圓此の割合三割七分三厘を募入としたる由

秋期漁業狀況

朝鮮東北沿岸の秋季漁業は大概鯖の網漁、鰯の網、鱈の釣漁及び鰈、柔魚等なるが總督府水產課尾原技師の談に曰く

▲鯖は咸北雄基より淸津附近咸南の大津方面は例年に比し豐漁といふ程にはあらざるも網の位置に依りて豐凶の差著しく多きは一網一日五萬乃至十萬尾の漁獲なるが咸南の新浦、元山方面、江原道の長箭附近に於ては漁況概して咸北より良好にして同上一日の漁獲五六萬尾より多きは二十萬尾に上りつゝあり

▲鰯の漁期は鯖より少しく遲るゝが爲めに未だ盛漁期に入らざるにも由るべきが咸北に於ては例年大敷一網に四五萬尾の漁獲あるもの今期は二三萬尾を出でざるが如く咸南、江原方面亦咸北に同じ然れども十二月中旬頃迄は鰯の漁期なるを以て果して目下の漁況の如く平年より鰯の來游薄かるべきや今日の處確實なる見込立たず又釣漁中

▲鱈は前年來開鱈の支那輸出盛んに行はれ價格も亦貿易品に調製せば四五割の高値にて取引さるゝ爲め之に著目する者漸次增加し本年は沿岸各漁場に集まれる漁船數も客年に比し頗る多數なるが其等の一日一艘の漁獲少きは三百尾多きも一千尾に上らざる有樣にて例年に比し豐漁にはあらざるも漁船數の增加の結果は自ら總漁獲高の增進を來たすべきにより客年の水揚總額四五十萬圓なりしもの今年は其倍額八十萬圓乃至百萬圓にも上るべく其内對支輸出額は從來咸北のみにて十四五萬圓なりしが今年は其倍額に上るならんと思はる

▲柔魚は大體に於て不漁なり例年鬱陵島のみにても漁獲高十二三萬圓を下らざるに今年は現在其半額にも達せず漁期は十二月中旬に終るも今日迄に大多分の漁獲を見ざるべからず而かも漁況は右の如し不漁を免かれざるべきか

▲鰤も各地共に不漁なり例年漁船一隻一日の水揚十貫見當たるも本年は今日迄の處三貫目内外に過ぎず以上は秋季漁業の概況にして漁獲高は或は例年に如かざるべきも近來魚價騰貴の折柄とて漁業家の手に收むべき金額は前年と大差なかるべし

平安丸就航
二十一日夜元山發北行

彥島船渠に入渠し居たる朝鮮郵船會社汽船平安丸(千五百噸)は十八日出渠釜山に向ひたるが釜山より臨時航路として淸津に向ふ事となり二十一日夜平臨丸と同時に元山を出帆すべしたる爲めに淸會線開通式に列せんとする人は平安丸にも便乗し得べし尙ほ同船は廿四五日の兩日中淸津を出帆元山釜山を經て阪神航路に就き其後内鮮間の貨物輸送に從ふべし

佛國歸客談

佛國の少年兵=新式飛行機の急造=佛の獨逸俘虜=巴里婦人の服裝=食糧の缺乏

佛國大使館附武官步兵少佐谷伊之助氏は約五年間巴里に在勤し佛國の事情に精通せるが此程朝鮮經由歸朝に際し某氏に語れる所に依れば佛國に於ては目下十八歲迄の少年を召集し軍隊敎育を受け居れるが

□十七歲の少年は未だ召集し居らざるを見れば尙餘裕あるものと見ざるべからず然るに獨逸より時々渡るゝ報道によれば獨逸は十五六歲の少年をも召集して既に戰線に立たせ居れりと云へば獨佛兩國の兵員缺乏の程度は之を以て見るも同日に語るべからざるなり佛國戰線に於ては飛行船の活動愈旺んにして夜間には宛然花火の如し又佛國はアート式に次でベート式等

□次より次に新式の飛行機を何千何百と云ふ程多數に而かも急速に製作しつゝあり然るに獨逸に於ては最早材料に缺乏を訴へ居れば其の製品その物が頗る經濟的に工風を凝し居れる形跡見ゆるなり佛國に於ける獨逸俘虜の數は約其時的に云ふを得ざれども俘虜は多く砲彈の後始末工場の職工等に使用し居れるが俘虜には

□技術者も少からずして甚だ便なり、又一部の俘虜はアルゼリーに移し居れるが十五六歲の俘虜も交り居れり米軍はパーシング大將指揮の許に目下後方勤務に從事し居れるが近く戰線に立つべし軍人以外の日本人にして佛國の戰線を視察せるは加藤上院議員、井上博士、東鄕男等にして新聞記者の如きも亦戰線視察をなしたり世界の

□女子の流行の根據地と云はれたる巴里も現今にては全くその影を認むる事鮮きなり戰前に於ては華美の衣裳を競ひて著飾りたる巴里婦人も今はその夫を失ひ兄弟を失ひて多く喪服なる黑服を纏ひ居れり然れども藝妓の如きは戰前と異るなく衣裳の美を保ち居るが之等は流行の根據地たる巴里婦人の眞價にあらず

□巴里婦人の眞價は上流婦人の華美なる裝ひなりしが之なき今日は巴里の婦人を語るべからざるなり巴里婦人と雖も土著の中流以下の婦人は戰前と雖も頗る地味なる衣裳を纏ひ居たり斯くの如き次第なれば現時に於ける予等が大統領に謁見するにも大禮服を著用せず戰時服のまゝにて支障なきなり俱樂部等は依然隆盛なるが婦人の社交的集會は大いに減退せり食糧の缺乏は

□佛國も亦免れざる處にしてパン、肉、菓子の需要には制限を加へ居れり殊に佛國は世界に於て第一位を占め居るパンの良質なる國なるが近來は非常に粗惡になれり然れども之を露國のパンに比すれば數十倍に良質なるを信ず石炭に對してすら制限を加へられたり佛國々民は擧國一致にて最後の目的を達するの覺悟なり殊に

□英國は今や聯合國側の中堅にして且つ自國將來の立場より考へ且つ未だ財源及び物資の豐富なるよりして戰爭繼續の決心愈々鞏固なるが如し

隊署長會議終了

本月十三日より京畿道内會議室にて開催中なりし京畿道隊署長會議は十七日は十九日午前九時三十分より鹽澤大佐統裁の下に開催し鹽澤大佐の訓示終りて一般事務の連絡に關して打合を爲し正午に至りて會議の終了を告げ散會せり

人參製藥出願

釘本藤次郎、小林藤右衛門其他五氏發起人となり資本金總額五萬圓の株式組織にて朝鮮人蔘製藥株式會社設立の計畫あり株劵は一株五十圓とし第一回拂込を四分の一即ち十二圓五十錢とし發起人に於て全額を引受くべく京城府に本社を置き朝鮮人蔘及び其製藥販賣蔘圃の耕作並に蔘圃耕作者の資金貸付等の業務一切を營むを以て目的とし帝國領土内各府縣下及び外國各要地に支店を設置するの目論みにて目下當局に設立認可出願中なり

鐵原評議員當選

鐵原學校組合評議員補缺選擧は十八日小學校に於て執行投票の結果西谷國藏、藤原房雄の二名當選せり

中村稻垣兩氏陞叙

客月退官したる總督府技師中村孝氏は正四位に陞官となれる鐵道局技師稻垣甚氏は從四位に十六日附何れも特旨を以て位一級を進めらる

古海總長歸任期

陸軍秋季特別大演習陪觀に參列したる古海警務總長は去る十七日朝彥根發同夜京都著直ちに京都ホテルに投宿滯在中の所十九日出發歸任の旨其筋に通報ありしに付來る二十一日朝南大門驛著の豫定なりと

總長茶菓饗應

古海警務總長は隊署長會議の爲め入京中なる京畿道管内各隊署長一同を十九日正午憲兵隊司令部將校集會所に招待して茶菓の饗應を爲せり

小原視學官出張

總督府視學官小河原義熙氏は比律賓諸島香港佛領印度支那瓜哇島海峽植民地及び印度へ出張を命ぜられ出發す可く豫定日數は五箇月なりと

東拓總裁入京期

南北滿洲並に北京に旅行中なる東拓總裁石塚英藏氏淸水秘書役西山書記の一行は十九日夜奉天出發二十日午後七時二十五分南大門驛著列車にて入京の旨東拓京城支店に入電ありしが其後總裁は滯京約二週間にして十二月上旬家族同伴東京に引上ぐる豫定なり

兩主任清津行

滿鐵京管局より淸會線全通式に列席するため若曾根文書主任伊藤機密主任の兩氏も局長と同行淸津に向ふ

人見局長移轉

人見鐵道局長は十五日元秋山參事官の官舍に轉居

新義州

▲新義州銀行開業期 豫て新義州有志によりて企畫されつゝありし新義州銀行は此の程に至り新義州安東兩地の會議により資本金五十萬圓四分の一拂込を終り重役其の他も決定し諸種の手續も略完了せしを以て愈々廿日頃より營業を開始すべき豫定なりと因に社長には新義州加藤鐵太郎氏專務取締役には安東藤平泰一氏就任せり▲製紙會社事業開始 王子製紙會社を中心として企畫せられつゝありし新義州製紙會社は其の後創立事業著々進捗し資本五百萬圓とし其の拂込みも完了したる由又會社敷地としては鐵道線路北側の平地約六十萬坪をも買收し又原料パルプ用木材は全部營林廠より供給を受け決して不足を來す恐れなき事となりたれば遲くも明年春期には工事を起し晩秋より若干の製品を市場に供給するを得るに至るべき見込みなりと

群山

▲署長赴任 群山警察署長寺島警視は既報の如く京畿道警務部詰となり十五日群山發任地に向け出發したるが停車場には官民の見送り盛んなりし▲記念品 別項寺島警視榮轉に付群山在任中の功勞に酬ゆる爲め官民有志發起となり記念品を贈呈すべく時機に新任署長渡邊警視の著任後時機を圖り新舊署長を招待し盛大なる送迎の宴を催すべく議ありといふ▲田島氏出發 既報群山鮮銀支店支配人田島氏は愈々十七日午後六時廿分群山發列車にて家族同伴赴任の途に就けるが停車場には官民多數の見送りありたり▲繩叺組合 江景に於ける忠南繩叺販賣組合長拓上富藏氏は同組合の地方に於ける製品の最近著しく品質の向上せるを好機とし販路擴張を兼ね繩叺需要視察の爲め北鮮各地に向け十六日出發したるが元山を經て南鮮各地を視察すべしと

人事消息

▲野呂六佐(步兵第七十七聯隊長) 十九日午前内地へ
▲安武千代吉氏(釜山辯護士) 十九日朝入京 不知火旅館へ
▲加藤定吉氏(代議士) 同巴城館へ
▲藤原勝氏(住友社員) 十八日夜過京
▲大島要氏(三菱技師) 十九日朝入京天眞樓へ
▲檜山六三郎氏(東京實業家) 同上
▲吉田朝郵專務 社用にて東京大阪京都方面に出張中なりし所十九日午前九時二十分南大門驛著列車にて歸京
▲國府保安課長 目下道中のところ十九日より出勤
▲久水外事課長 十九日朝釜山より歸任
▲原神戸製糸會社重役 同天眞樓へ
▲武田第二等軍醫正 十八日夜歸任
▲岡本遞信技師 十八日東上
▲臨野善雄氏(警務總監部警視) 十八日歸任
▲白井水雄氏 十九日歸開

彼れ此れ

○米國は、ハウス大佐を歐洲に送り、列國の關係を調査せしむべしと。之れに聯關して、英國は前外相グレー子をして、米國を訪問せしむべしと傳へらる。グレー子は最近十年間、英國外相の椅子に在りて、佛のデルカッセ氏と共に、今次の大戰を誘起したる人々で、歐洲最近外交界の活歷史也。グレー、ハウス兩氏共に、來るべき講和會議の、花形なるべしと米紙云ふ。之れ講和下準備の爲か、否か。

○娘子軍と云へば、露國の一手專賣の如けれど、英國にも新らしく編制され、佛國に派遣の上、軍服姿も甲斐々々しく、後方勤務の補助隊として、働きつゝあり。其等娘子軍に對する、最も嚴格なる軍紀としては、一切男子と、口をきかざるにありと。女は之れが厄介也。

○日本の牛肉罐詰と、福神漬は、日露戰爭にて、世界的の聲名を博せり。今次の大戰にても、英、佛、伊、露其他より、夥しき注文あり、其の名の如く、福神の成金も現はれたりと。然ども邦商の、大缺點たる、粗製濫造多きに、却て其の聲名を、毀けんとするは、以ての外也。

發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社

十一月一日現行

馬南峻嶺を踏破す
首途の吉兆
巨虎一頭目前に現はれ電光の如く谿底目蒐けて奔出す

長興里で本隊と別れた山本氏外數名の別働隊は十七日秋馬上德、正龍峰等の虎窟に突撃する策戰上豹の群棲する馬南嶺を脅かして豹を秋馬上德方面に驅逐し早朝を期して一擧に虎豹を殲滅せんとも先づ馬南嶺の險を冒して進んだ、馬南の背梁は

◆巨獸の怒れる肩 の如く群岳の中央に聳え此れに左する群岳は屏風を立てた樣な懸崖を作つて德池江に向つて段々と奔馳する其の狀は恰も焦茶色の背に波紋打たせた猛虎が大地に蹲するに似てゐる一行は豹虎の足跡を探ねて山の麓より登り、徑より山顛に攀ちたが山中到る處巉岩險々相重つて登攀下降共に

◆一歩は一歩より も險しけれ共既に虎の勢力圏に侵入したる事とて氣自ら緊張して踏む足も輕く縱横無礙に馬南嶺を踏破つた、斯くて行く事約二里の險峻な嶺に達すれば本田砲手は此の懸崖が虎窟であると指さす見上ぐれば奇岩兀々として峙ち龍蟠虎踞の態をなせる

◆怪岩は相重つて 蠢々天に鑽ねて居る半月淡く巖頭を照らす時猛虎嘯を負ふて天地に咆吼する背景としては絶好の畫題である本田氏は一行を勵まして山頂に攀ち百仭の懸崖に向つて轉々大石を投下すれば石は巖角を衝つて大音響を發しつゝ谿底に墜落し粉と碎けて散る樣は大山鳴動して搖るゝが如く奇觀壯絶を極めた、其の瞬間一行の立つた岩角より僅か三十間の下方怪岩相重る處から

◆俄然黄金色の怪物 が跳り出し、巨岩を飛び跳ねて電光の如く谿底目蒐けて奔出した一行は感傷と歡喜に虎!!虎!!と叫ぶ瞬間轟然一發本田氏は發砲したが距離既に遠く彈丸は徒らに空を射て流星光底に巨虎を逸した、然し一行は首途の小手調べに成功せしを祝して嶺頭に萬歳を三唱して意氣揚々本隊より遲るゝ事三時間

◆既に日は沒して 餘にして宿營地なる彌屯里に到着した、山中の寒村は池江の流れも凱歌の聲に和して一行の成功を祝福する者の如くであつた、夜は一同卓を圍んで祝盃を擧げ明日の日程を定めて各指定の宿舍に引揚げて一夜の睡眠を取る事となつた、明日は午前七時半出發秋馬上德正誠峰さして愈々虎狩の第一日を開始する勇心躍々として果して靜かな夢が結ばれるかどうか村落の南に聳ゆる物方德の頂上を睨んで明日こそ大虎を驚かしてやるんだと叫ぶ聲が寒燈の中から聞える（彌屯里十一時[illegible]特派員巳之利）

何して冬季は缺航が多いか
玄界灘の冬は北西の風が强い

冬季に向ふに從ふて海峡旅行が漸次險惡となり航海者が接船に苦難を感ずると共に乘客も船旅を避けるので冬季の航海を嫌ふ者が多い。冬季に入れば漸く風波高く時折りは關釜間の交通を杜絶せしむるに至るのは如何なる理由に因るのかと十七日記者は新釜航路長之助氏を訪ふて其談を聽く冬季に向ふに從ふて海上の險惡となるは氣壓の低下せる關係より發生する現象で何處とも同一であるが關釜間の海上には冬季は主として北西の風が多く

◆東北の風 もあるけれども釜山より馬關へは追手になれば別に劇しき動搖もなく交通の杜絶することは稀なれども馬關より釜山に向ふには向風となる爲め運航遲落又は缺航等のことは珍しくない西風が強くて

◆追手の時 には船は横搖となり向風には縱搖となるが普通である古から云傳の二、八月に舟乘るなと云ふことがあるが彼岸時分にて太陽が赤道の中心に在りて季節の分界線に當れるに因り

◆此期間は 概して天候に變化を生ずる此傾向は決して永びくことはなけれども冬季は低氣壓の襲動せざる限り繼續して容易に回復しないのであるが關釜間は比較上其繼續が短い先づ大抵は

◆一晝夜位 で靜穩に歸するのが常態であるから先づ沖の島を中心として何れかの一方が時化ると云ふことになる古人は島も通はぬ玄海灘などとサモ難航路の如く唱へられて居たれども世界に交通の開けた今日では寧ろ

◆安全圏内 に屬するので日本内にても其れ以上の難所は澤山に在る壹岐丸對馬丸の時に風浪の爲め缺航することあるを以て航海に堪へざる爲め缺航するかの如く聞せるも決して然らず風波に堪へずして缺航すると云ふ理由でない船は斯數少なき爲め風波に際せば

◆航海時間 を多く費し且つ天候を見計ひ出帆する等の場合は到着港に於て次船と差合ひ荷役等に手間へを生じ爲め繰上支障を生ずる恐あるを以て缺航せしむる都合にて多くは便宜上の處置に出たるものである

◆其證據に は高麗、新羅の大型船の出來せざる以前に在りては時間を繰延してなりとも航海せしむることとなく航海しても何の難きこともあるから今日にても何の難きことのあるべき（釜山）

虎狩隊畫報

（上）高原停車場前にかける歡迎門

（下）一行高原邑より狩場に向ふ

凱歌を奏す
永興の歡迎會

◆大豹を前に 虎狩隊永興組は數日前より宣興面龍神里南方一里半を隔つる部落に於て豹數頭を發見し追跡中十七日午後四時菊谷力藏は岩石峭立せる山腹に於て豹を發見し發砲したるに豹は猛り狂ひ

◆砲手目蒐て 飛び掛ると共に豹の臀部足等を射ちたるに豹は深手を負て益々狂ひ叫び數丈の岩石及び谷を飛び越え一大岩窟中に逃げ込みたり三砲手は岩石を攀ぢ上り洞穴前に近づきたるも豹は目を怒らし爪を磨ぎ近づく可くも非ざるより木に登りて

◆頭部を目蒐 けて射ち止めたるに遂に斃れたり十八日午後七時一行は永興驛前に於て豹を前に凱歌を奏して紀念撮影したるが沿道上永興官民有志百餘名の歡迎會ありて普通學校に到り歡を盡せり十九日は午前九時發前記の狩場に向ふ（永興特電）

寒氣の爲め行倒れが多い
▽……地方から出て來た鮮人乞食の群れが
▽……總督府醫院や警察署の門前に集まる

近來寒氣加はると共に物價騰貴しは地方の者が多く京畿道の郡部を初め遠くは忠清南北、江原、黄海の細民中には生活難を訴へ諸道の貧民中京城に出て行けば大るものが多い、そこで乞食體の者は夏分と異つて一層に困難し拾ひ食ひさへ出來難い爲め

▼營養不良で 路傍に行倒れる者が續出して來る、是等は京城に一定の住所も無く市中を徘徊して貰つたり拾つたりして纔かに露命を繋いでゐる中途には病氣に罹つたり營養不良から漸次衰弱して亡するのである、而して是等の者は總督府醫院や京城府及は各警察署等の門前に集まつて行旅病者として施療を受けやうとしてゐる一體に此の乞食體の者に雨班や貴族などが

▲助け上げて 食はせて呉れるなどといふ噂を信じて方々から集まつて來る一方病氣に罹れば總督府醫院を初め數多い施療病院があると聞いて來て見るとなかなかさう都合好く行かぬ爲め市中を徘徊してゐる内に遂に行き倒れといふことになる十一月に這入つて本町及び鍾路の兩警察署で取扱つた行旅病者（中には死亡者もある）は十五名ばかりに達してゐる

佛國彫刻大家
ロダン翁逝く

世界に其名を知られし佛國彫刻界の耆宿オーギユストロダン翁は逝去したり（巴里電報）

香港總督
龍興江で狩獵

香港總督サー、ヘンリー、メー氏は十七日元山通過永興へ一泊の上十八日龍興江を船にて下りつゝ狩獵を爲し夜は船にて假泊しつゝ一週間を遊獵に費す可しと（元山電話）

裝彈爆發して
二名負傷す

咸南元山松島居住の漁夫山田縣出身下伊那郡上鄕村生れの松原八十松（三）外一名は十六日午後七時頃獵銃に裝彈中裝彈が爆發し木下は右手二指を切斷され松原は左眼を射潰されたる騷ぎに元山府立病院に入院加療中なるが兩名共生命には異狀なしと

連絡船より投身

釜山草梁に居住中なりし博多生れの西口厚（三五）は内縁の妻山本よね（二八）外一名と共に十五日朝釜山出帆の壹岐丸にて下關に向け歸國の途中巖流島沖にて甲板より投身して自殺を遂げたり精神に異狀を來して入水したるものゝ如しと

一家七人を惨殺す
熊本縣天草稀有の大慘劇

熊本縣天草本渡村唐津順太郎（三五）は十八日斧にて舅夫婦と妻子五人を慘殺せる上自殺せり天草稀有の大慘劇なり（大阪時電）

陸上の海兵生活
▽——軍艦防備隊を訪ふの記——

陸の上のハンモック——淸潔な兵營——春の樣な暖かさ——

▽電燈の光り に照らされて、微かな寢息、さては遠雷の樣な鼾をたてゝゐた幾つもの寢顏がハンモックの中から現はれて來る。

「オイ、みんな起きろ、起床喇叭が鳴つてるぞツ……」と隣い部屋で大きな聲を立てる者がゐます。すると、今まで、海晴い……踊れてゐると思ふと……

ます。そしてまだほんたうに醒めきらぬ眼をしばたきながら、前夜の夢の跡でも追ふやうに、じつと耳を澄すと淸々しい朝の氣を破つて響き渡る喇叭の音、これをきく

▽素敵に寒い 日の午後で、赤煉瓦の要港部の後ろに、そそり立つ高い山から吹きつけてくる風が骨を刺すかと冷たく、防備隊の直ぐ前の突角に立つてる、無線電信所の長い柱がさげ〳〵して見ゐるのであつた。極寒の頃でさへ滅多に雪が降らぬといふこの土地に、鳥の産毛のやうな細雪が霏々として降りしきる、その中で薄い夏服に

白馬ウヰスキー 東京 京城 青木堂

▽薄い夏服を 著て、せつせと働いてる水兵の群を眺めながら、突然訪ねて行つた私は××大尉の案内で、防備隊の種々の建物を觀せて貰ひながら、陸上勤務の海兵の生活といふやうな事を知らうとした。××大尉がいふ通りの水兵の寢起する部屋には澤山のハンモックが吊つてあつた。そして

▽室内は板敷 で長方形の卓子が幾つも並べてあり、室の隅々には蒸汽暖房の裝置があつてまのやうな軟らかな暖かさが漲つてゐた。部屋は總べて艦の中に見るやうな造りで、非常に淸潔らしく「陸上に居つて吊床に寢るかつた。」陸上に居つて吊床に寢るのは部外の人から觀ると訝しいかも知れませんが、軍艦の中ではどうしても吊床に寢なければならぬことになつてゐるので、平素から

▽その習慣を 養ふためて吊床に寢かしてゐるのですが、馴れてみると、そんなでもありませんよ」といふ。成程然んなものかと思つてち彼方此方と見廻す室内では今夕食とあつて卓子の上にさまぐな御馳走が駢られてあつた。

讀者文藝（一等に五十錢等外若干）

△一口噺『其時々の事』

○讀者『高瀨盛子は合嬢の結婚式を能樂堂でヤツたさうだ』與太『そ
れぢや共稼で嫁さんが神樂を踊つたんだらう』（一等） 龍州 久住 松月

△讀者『京城に三軒合併した理髮師があるさうです』與太『濟衣手の刈いた理髮師と見える』 利川 うらなり

△手供『お父さん流行病には石炭酸が入用ですか』父『馬鹿め汚ぎにさんか付ける奴があるか新任米國大使の京城部見學に新來大使さある方見たか…』群山 荒 岡

△讀者『六十四の大熊を十五發で射止めたさうですか』與太『一發四貫づゝか射手も强力だな』 京城 白 水

△與太『四日間に百る森林大火災があつたさうな』八文『道理で炭が不廉いわい』 京城 松 花 生

京城 美 山

▽螺旋仕掛の 人形のやうに、一斉にハンモックの上に起き直つて「お早よー」を交換します。同じ陸上勤務でも陸軍と海軍とは先づこの邊から違ひますな——と兩手を膝衣のポケットに突き込んだまゝ、兩方の肩を一ッ輕く搖り上げながら、快活さうに語う言つたのは鎭海防備隊附の××海軍大尉であつた。それは

◇第五回朝鮮短歌會

日時 十一月廿三日（新嘗祭）正午
課題 『土』三首
歌稿締切 廿二日限り
宛所 京城日報社朝鮮短歌會係
會場 京城南山本願寺
會費 金參拾錢當日持參の事
一般 同好者の參會を歡迎す
幹事 角田不案（朝公）、瀬波英夫（朝新）、鈴木古都子、角田芳子、小野和之、高須製默、本間素月、山崎阿木良（京日）

△取消 拜啓貴紙本月十六日夕刊所載の一萬五千圓約束手形僞造云々の件に付き小生共謀したる様記載しありたるも公正なる保官の御扱に依り何等關係なきこと明白となりたるに付以後小生の信用に及ぼすこと付右記事は宜敷御取消被下度奉願上候也大正六年十一月十七日京城古市町椎野富三郎

□募集規定
△用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事
△締切は一週間後△種類の異る毎

（文藝課題及募集規定）

商況

債券現物特電
十九日出來値
東京
[illegible]

公債直取引
十九日出來値 京京
五分特別 九六、五〇
五分利公債 [illegible]
四分 八〇、一〇
二回四分 [illegible]
甲五分 九六、〇〇

深川正米特電
十九日現在高
地廻米 [illegible]
朝鮮米 [illegible]

東京期米特電
十九日前引 一月限 [illegible]

大阪期米特電
十九日前引 [illegible]

下關期米特電
十九日前場 [illegible]

雜報

綿糸布昂騰 今前場先限二百七十八圓又九圓五十錢に昂騰入電綿布三

洋紙は强硬 一般洋紙の値上げ協定期間も稍々今月を以て終了すれば年末に接近するに從ひ先づ强硬の見越しに至る由

絲鐵は軟弱 [illegible]

正米引締まる 正米は殺の出廻り減少と共に地場物のみならず[illegible]

高値約三四十錢 玄米並上物二十圓六十錢 沿線地方 賣物少なく地場の高値買ひも餘儀なくせられつゝある

糯は依然强硬 糯は引續き强硬にして水原中白極上二十七八圓唱へをる

京城雜穀
[illegible]

南大門の廻穀
大安白米 八〇叺 東豆川大豆 二九叺
[illegible]

大豆は頭打ち
合地方共に安模樣 約二十錢安の見當

支那粟産地高
[illegible] 出廻り初めて約一十日間向 昔原價約十圓七十錢に當る

漬物大根豐富
[illegible]

下關相場
[illegible]

釜山穀物（十八日）
[illegible]

仁川期米
十九日前場（强硬）
先十九圓九十錢、一錢安に寄付
二十六錢、二十二圓七十
三錢
東京二十七錢 九錢
庫七十六錢
一圓丁度、大暴騰
更に二十圓丁度、上伸した賣物漸く多く十九圓九十七錢

市場雜觀
[illegible]

株市場閑散
[illegible]

北濱たより
[illegible]

十九日の一月限 仁川米豆取引所
期近は媚り先限は即 商内振ひ

問題は裏面に又難合

仁川米豆取引所仲買人 大五仲買店 店主 猪俣政太郎 電話 長九〇一、三〇一番

仁川米豆取引所仲買人 三巴仲買店 仁川海岸町三丁目 電話 一三一、三二四番

仁川米豆取引所
十九日前場
十一月限 十二月限 一月限
[illegible]

大阪期米
十九日後場
十一月限 二十九圓九十八錢
二十九圓九十六錢
一月限 二十九圓九十三錢

平均 二十九圓九十八錢
一二三節 十二圓九十八錢
[illegible]

十九日後場 大阪 [illegible]

七川米豆取引所

晴れ時々曇り（十一月二十日）

天氣は

七川 米
▲十九日後場　大阪前止め變はらざる入電に中限二十圓五十錢先二十圓〆一錢と四錢高に寄付たるが大阪後寄小安き
△先限一節二十圓〆一錢二錢三錢四錢一錢四錢三錢二錢一錢十九圓九十九錢二節九十七錢八錢七錢八錢九錢三節九錢八錢七錢八錢七錢
後場　寄付　二十圓〆一錢　高値　二十圓〆四錢　安値　十九圓九十七錢
●連絡船上陸客　十七日後九時四十分釜山入港對馬丸　一二等客　一等七名……外人五
二三等客　一等(六名)……外人三名　二等(四十四名)……

蒙古まで　四鄭線見物(二)

◇奉天にて……巴布札布生◇

◇鄭家屯事件のお土産の電信線◇

◇馬賊の首を曝しものにした馬賊村◇

蒙古行きの汽車は四平街を出てから相も變らず曠野を走つてゐる、刈り採られた高粱の畑の其處此處には相も變らずヒョロ〳〵長い

◇白楊と白樺と◇

楊の木の並木、それに支那人の家ばかりで一向蒙古らしい臭ひもない、全體蒙古は何處らあたりかと訊くと『廣い意味から云へば洮鐵本線の昌圖、長春みなむかしの蒙古で何もこれから蒙古だといふ區劃はない』とのこと、なるほど此のあたりはむかしは蒙古で、今も蒙古であるのはあるだらうが無邪氣な蒙古人はずるい狡智に長けた

遼河上流三江口の四鄭線橋梁(十一月十一日記者撮影)

◇支那人に壓迫◇

されてだん〳〵と西方興安嶺の方に逃げて行くらしい、蒙古人は非道に於けるアイヌである、彼等は勤勉な意思明るい支那人にかけては全く生存競爭の敵ではない、だん〳〵だん〳〵奧地深く追ひやられて了ふ、それに純粹の蒙古人は耕作を卑む『いくら貧乏をしたところでまだ百姓する程の俺ちやあない』とは蒙古人の言ひ草だ相だが彼等は只牧畜を業とし原始時代のやうな經濟狀態をつゞけてゐる、廣い白樺の並木には時々

◇支那人の馬車◇

が行く、しかも驢や騾や蒙古馬を五六頭もつけて野と云はず畑と云はず牽いて行くやうである、馬車は顛覆の多い程がお自慢だ相な、汽車は一時間と廿分にして八面城驛についた、驛は白ペンキに硝子の窓もあるといふハイカラでさしつめ赤ネクタイの巴布札布將軍といつた感じがする、汽車の給水槽は今し櫓をかけて建造中、

◇新しい驛には◇

饅頭、駄菓子賣りの支那人も見えるが、八面城は驛の南方に在つて直前は北から南の法庫門に通ずる街道で繁昌した街だといふこと、驛には大豆のズック袋が積みあげられてあつた、此のあたりの平野から出る特産物は昨今から十二月、一月、二月にかけて出盛り期で八面城はむかしからその集散市場

◇巨な支那商人◇

の店舗が廿四五軒もあつて奉天の大銀行からの支店出張所もあるといふ、今年は水害で低地は殆んど一箇月以上も浸水した、しかも高粱は水中にあつて少しも弱らぬといふ、此の點に於ては天然に克つと人も植物も同樣であるらしい、汽車は午前七時五十分八面城驛を出た、ふと窓外の電信線を見ると高い細長い電柱と低い大きな白樺の電柱と二つある外側のは去年の

◇鄭家屯事件◇

にあたつて日本軍の架設したものであつた、工事は滿鐵の石田森平といふ人であつたが元來四鄭線は列車も人もみな滿鐵から借用してゐる、そして正金銀行からの借款五百萬圓は歐洲戰亂のお蔭で工事費不足となり、あと百五十萬圓を要するとのことである、車掌さんは此の蒙古線の殺風景なことを語りながら『追々馬賊村になりますぜ』と

◇物騷なことを云◇

ひ出す『先日までは彼處の電柱の側に馬賊の首が梟されてありました』といふ、なるほど周圍は人煙稀れに頗る物凄い曠野となつた、唯だ行列した白樺の疎林に初冬の日光が明々と照りつける

●黒龍威壓急也

廿七、八師團も出動せん

黒省問題は既報の如く張督軍の武斷政策に由り英旅長は免職され巴旅長に代りて英氏は既に其部隊を巴旅長に引渡しを終はり表面に於て軍界は平定に歸せるも英、巴兩人は多年黒省に在りて軍界に關係厚く且つ周邊の蒙匪等にも聯絡あれば若し彼等が其根據地に返へりて不平の軍人及び匪徒等と團結するに於ては一時不測の形勢を誘致す可く目下呉二十九師長は其部下を率ゐ全隊を隨へて同省城に在りて鮑督軍の後楯を爲せるも兵力寡薄にして萬一に際し根本的處置を英、巴等に加へ能はざるを以て張督軍は過般二十七師の一隊を率ゐて出動し現在洮安に駐在せる張司令官を黒省に進發せしむ可く昨日趙參謀長を西安に急派し又二十八師は別に混成一旅を編成し第二隊として出動する事に決定せるも吉黒形勢の推移を觀て未だ進發せざりし處是れ亦た大急出發して鄭家屯に向ひ同地より黒省に入る可きを電命したるが之れに徴しても張督軍は若し英、巴等が少しにても不穩の擧動あるに於ては直ちに最後の武壓手段を實行するの決心なる事明白なり(奉天)

●滿洲化學工業

統一的大會社計畫

昨年奉天に創立されたる奉天化學工業會社は時代の進運に伴ひ其の資金を增額し規模を擴大して益々事業の發展を企圖せり更らに滿蒙の振興化學工業の他民間個人の經營に由るものも骨粉、骨炭等の製造を初め大小幾多の會社工場は省規模を擴大し大蓄殿の營造に向へり猶ほ最近に於ては澱粉、フワクチス製造目的の二大會社を興せんとし目下着々之れが調査準備を進めつゝあるが澱粉製造會社は滿洲農産の大宗たる高粱、包米等より澱粉を精製せんとするものにて又フワクチス會社は豆油を料として護謨代用品を作製せんとするものなり而して確聞する處に據れば由來此種の化學工業はこれを各地に於て小規模に經營するよりも統一的大會社を創設し朝鮮及び滿洲所産の原料を以て大規模に經營せば經濟能力を高め理想的發展の域に達するを得るを以て遠からず大倉喜八郎、新太郎、荒井泰治、中野武營等諸氏を始め當局に於ても已に此の點に著目し或は近く之れが實現を見るやも知れずと(奉天)

●特産輸出殷盛

滿洲特産物たる大豆も愈々出廻りに入りたるが今夏取引所問題片付かざりし爲め大連各銀行は昨年來全く特産物に對する貸出打續きの儘再々新豆に對する貸出開始され朝鮮銀行大連支店の如きも既に多額の新貸出を爲したり一方現物新大豆も今夏大取引の紛擾の爲め例年に比し輸出不振に陷り二十四五萬噸の大堆貨の儘夏秋を經過したるが既に新豆の出廻りもさし迫りたるを以て近來漸く輸出荷動きを見るに至り最近大豆七千噸豆粕二萬百二噸積取りあり更に十日に第二滿美丸神戸に向け豆粕九百十二噸十一日は忠雄丸門司へ同じく一千十噸發中丸大阪同二千百噸和撰丸横濱に五百噸其他十七日迄に臺東丸松菊丸大和丸最上丸安東丸基隆丸嘉義丸隱岐丸泰平丸シンキン神王丸等大豆及び豆粕を各千噸乃至六千噸積取の筈にて猶引續き本月下旬頃より輸出旺盛となるべし(遼大)

●製肥　膠製造開始

牛擺橋口町朝鮮製肥株式會社に於ては去る十日頃より膠の製造を開始せるが十日平均十五貫目位を產出にて價格一貫目二圓位ひなるが產品の大部分は大阪に移出せられつゝあり

●迷信の結果

三度罪を犯す

平安南道順川郡舍人面龍里二統四戶金益秋五十四年は順川郡内面新里鉢山に祖先の墳墓を有し居れるに今を去る十七年前其附近二復歩を離れて平原郡東松面月峯里十統四戶車燦鎬が祖父の墳墓を設けたれば俄に迷心に捕へられ自分の子孫に禍を爲すと當時舍人每に吹聽し一夜車の墳墓を發掘して價川支那廳に於て懲役十個月に處せられたるが同人は其後も迷心に驅れ常に之を氣にし居りしが本年九月三十日又も車の墳墓を發掘し十月廿七日安州地方法院に於て笞六十の處刑を受け尙安州憲兵分隊長より懇篤なる說諭を受け歸宅せしが本月七日車燦鎬が祖父の墳墓を修繕し前に倍して壯麗なる墳墓と爲したれば金益秋はむら〳〵と憤怨の焔を燃やし同夜車の墳墓を發掘し終に車の祖父の骨ばかりの遺骸を掘出し之を背負ひ附近の河中に投棄し發掘したる墳墓には孝子金益秋遺骨を負うて安州に向ふ必要あらば安州憲兵分隊に來れと白紙に大書したるものを殘し置き然も其翌朝安州憲兵分隊に至りて赤土に塗れたる鍬を杖にし孝子金益秋は車燦鎬祖父の墳墓を發き遺骨を河中に投せり國法を犯したる段は誠に申譯なきも予は祖先の爲め後世子孫の爲めに面目を施すとて大聲を揚げて自首せりと

●奉天化學工業會社

五十萬圓に增資せる奉天化學工業會社は已に增資金の拂込を了したるを以て愈々工場規模の擴張を行ふ筈なるが本年は已に建築不可能なるを以て明春匆々現在工場二百八十餘坪を四百坪に擴大し其他附屬建物二百餘坪を增加し機械能力を現在の三倍として專ら膠、動植物油の搾製を營む外石鹼バタの原料として最も重要なる硬質油の搾取をも近日開始する由

●奉天の綿糸布

奉天の綿糸布市場は漸次好人氣に赴き地方客の來城者增加せる上頗る活氣を呈せるが此等地方客は本年の綿絲布の商況に吃驚して到底昔日の上物には寄附かず下等品の售行最も盛んなりと

◉燐寸會社の齎らす

細民の福音

燐寸箱の製造開始　結氷中恰好の内職

物價騰貴に苦しめられ寒氣の襲來に困惑させられて此の冬籠りを如何にして過すかと困じ果てゝ居る連中は鮮人以外内地人にも決して尠くない數である、勿論嫌の賢きに及ぶ例巧な人間はある筈もないので從つて冬籠りの準備をして居る餘裕の者は差當り見當らない、之等其日暮しの連中に對して天は決して見殺しにしないとの筆法で玆に立派な内職を授けた、それは

◇◇燐寸の箱貼り◇◇

頗る便利の好いものである、窮乏其極に在つて饑えと寒氣に迫られて居る鮮人に取つては之れ正に天來の福音、老父も追るべし婆もすべし婦人小供は尙ほの事一家悉く溫突の中に在つて從怠なく指の働らきを續くるならば決して其日の米代に苦しめらるゝ事はない、燐寸會社では之等内職の職工を養成する爲に既に同會社の二階では箱貼りの教授を初めた

◇◇希望者は一日◇◇

も早く事務所に申出で一日でも早く金になる樣に其修得を急がねばならぬ、聞く處に依ると普通一週間も稽古したら立派な一人前になつて、もうすつかり家に持ち歸つて溫突の中で仕事が出來る樣になるから他の職業と違つて辨當持參で朝出て夕べに歸るの必要もない却て米撰り其他の職業の傍らに

◇◇夜るの仕事に◇◇

出來るから便利な事は一通りでない最初稽古の間は成るべく辨當持つて習ひに行くと云ふ覺悟でないと、初めから數へて貰ふ上に金にしようなど虫の好い考へを持つてゐては間違ひである、それでも會社の方では或ひは其の事情に依つては何とか報酬の路を講ずるかも知れぬ、仕事がスッカリ手に入ると練習次第には一日二千個位ひは平氣で貼れる樣になる今の處内地での箱貼りは

◇◇千個で十二錢◇◇

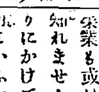
と云ふ至極安い相場であるが二千個も出來る樣になれば鮮婦人の職業としては一寸好い二十四錢の收入がある譯だ、それも一人でなく小供にも出來れば老人にも好いから是程便利な仕事はない、朝鮮には果して何錢位ひの報酬を出すかは未定であるが會社側でも特に窮民の救助と云ふ方面からしても内地以上に相應の報酬を出そうとの意嚮であるらしい、今の處は職工の先生が三人程來て居るが敎へるのは場所の都合上

◇◇一度に二十人◇◇

か三十人迄が限度でそれ以上の申込は一週間の後に廻さるゝから成るべく早く申込んだが宜しい、職業難の世の中にも此の燐寸の箱貼りは目をかけても人形の手でないと出來ぬそうだから來春五月に仁川工場の仕事が初まつてやレ燐寸の箱だと馬鹿にしても間に合はぬ、それが爲めに今から出來るだけの用意をするとの事であるから儲けたいと思ふ者は如何働らいても限り無い譯だ、之は獨り鮮人家庭に限られた種類の内職でない

◇◇内地人の家庭◇◇

にあつても宜しく妻君の小使ひ取りにやるべしだ、或ひは家計の一助として井戸端の無駄話を節約して此の邊に注意したら主人は此上もない仕合せに相違ない、何女は雜貨屋の拂ひに苦しめられても燐寸の箱貼りと云つて下卑るの必要は更らに無い由々細民地の火の車を廻し乍らも、氣位ひ計り徒らに高いと云ふ惡風潮があるから之等は須らく打破して先づ此の和の内職でも初めたが好からう(完)



△東洋拓殖會社の人はどうも菊が好きだ、東拓の菊が好みで御覽の通り、下瀨理事曰く『支那人は菊をそろへて美事に咲かせます△これによつて考へますと滿洲の甜菜も或は朝鮮より成功するかも知れません……』となるほど菊栽培にかけてはむかし支那には陶淵明といふお爺さんも御座つた△しかし花を觀ながらも算盤に見積る理事のおはなしは或は『菊を隔てゝ甜菜を見る』便ちこれ牛なるを知らざるの類ひかも知れぬ△庁に東拓の事務室には巨大なマンモス獸らしいものゝ頭骨がある△骨はすつかり化石して了い黑い四つの齒が位ゐの石塊ほどあるこれは先般蒙古から掘り出したものだといふ△南北滿洲に於ける三井物產の店は總數ざつと三四十箇所に餘るといふ△これに就いて奉天の店の中村主任のおつしやるには『天著なの行くあとには大概ついて往きますね』は面白い(奉天)

演藝案内

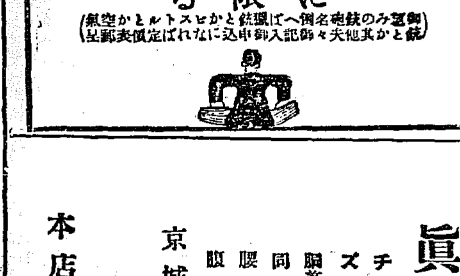
大正館　日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店　櫻井町　電話八七三　十一月十六日より秋季特別大興行　喜劇『デブ君の水難』(全四卷)……

浪花館　明治町二丁目　電話二六〇番　十一月二十日より浪花節　喜仙會一行　初日　第一　思ひ合せ　第二　唱から唄　第三　夢……

黄金館　電話二三六六・三六七……新派家庭悲劇『孔雀草』……

本日晝夜二回共　本曾有の滿員　大阪朝日新聞連載中　悲劇　孔雀草　初日以來多大の御好評を賜り特に昨夜の如きは七時各等賣切の大盛況　何卒御見落しなく御早來願上候　◎内地上場の都合あり日延不仕候　跡四日間　**大正館**

有樂館　京城演藝部經營　活動寫眞常設館　米國ユニバーサル會社特約……



鐵砲は　横濱の金丸銃砲店に限る　(主店　西村潤藏)
(御望みの鐵砲名例へば獵銃とかピストルとか空氣銃とか其他夫々御申込になれば詳細定價表郵呈)

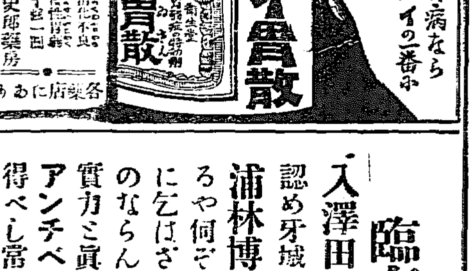
東京市神田區五軒町一番地　鳥獸剝製用義眼卸小賣　米山商店

朝日　致富の栞進呈　大阪堂島米穀取引所仲買人　曾我商店

職業　無資本にて出來る……上田總本店

致富の栞進呈　大阪堂島米穀取引所仲買人　今延商店

出張所開設　平壤　栗　藥栗　京城南大門通七丁目　電話六九番　池田商會



冬の防寒用としては
眞綿製
チヨツキ……一圓八十錢
ズボン下……三圓五十錢
胴着(和服用婦人用)……一圓八十錢
同(小供用)……九十五錢
腰卷……一圓五十錢
腹卷……八十錢
京城本町　塚谷出張店　電話一三六番
本店　東京神田南神保町

日英米獨政府專賣特許
かつけ新藥　アンチベリベリン
陸軍一等軍醫正　ドクトル　都築甚之助氏發見
發賣元　東京市麻布區笄町　南信堂藥局
發賣元　大阪市東區堺筋伏見町一丁目　南信堂大阪出張所
説明書送呈

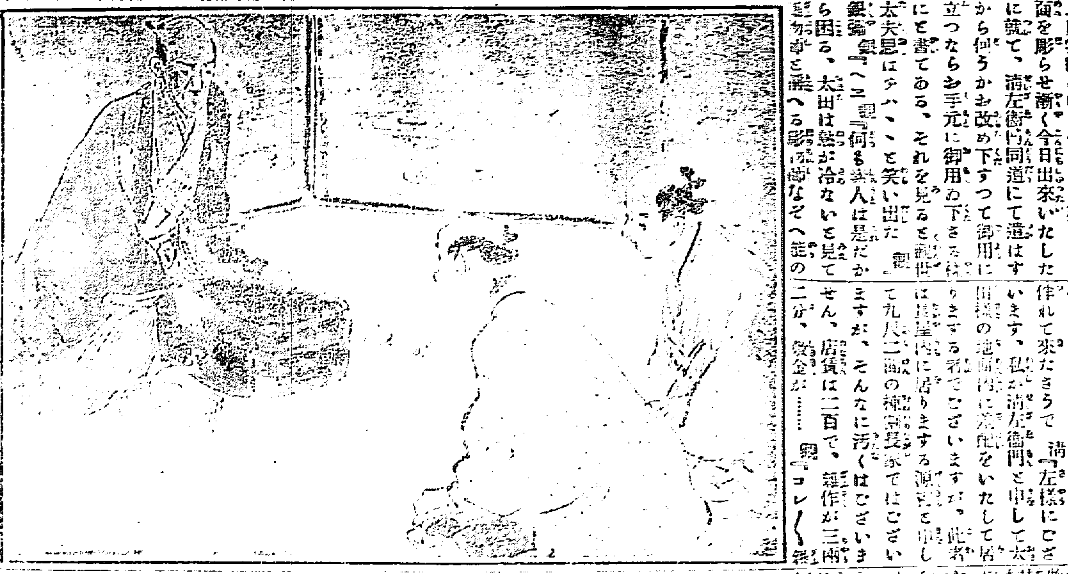
臨床醫家に急告
入澤田澤博士既に糠エキスの効力を認め牙城の一角正に頽る知らず青山三浦林博士等尙ほ強て廢城を守らんとするや何ぞ速に白旗を掲げ來て降を我軍門に乞はざる勝將豈武士の情を知らざるものならんや凡そ終局の勝を制するもの只實力と眞理とのみ其の實例は近く之を我アンチベリベリン療法に於て見ることを得べし常識に富む全國四萬の臨床家乞ふ長く去就の判斷を誤ることなかれ
學術號送呈
發賣元　東京市麻布區笄町　南信堂藥局

左甚五郎

第八十九席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

觀世太夫は其の手紙を披いて見ると、過般申し上げました源吉といふ彫物師に申し付けて、㒵の上の面を彫らせ漸く今日出來いたしたに就て、清左衛門同道にて遣はすから何うかお改め下すつて御用に立つならお手元に御用ゐ下さる樣にと書てある。それを見ると觀世太夫是はアハヽヽと笑い出した 銀『ヘエ』觀『何も素人は是だから困る、太田は鯨が冷ないと見て彫物師と稱へる彫物師なぞへ註の面を頼むといふことがあるものではない、然し折角參つた者を見ずに歸すも如何である、兎にあれ面會をいたすから客室へ通す樣に』銀『畏りました』と取次の者が其處へ出て來て 銀『さア何うぞ此方へお通り』清『ヘエ有難うございます源吉さん此方へお出で、遜つては叶けないよ』源『ヘエ、持つて參りました此の品が納らんければ私は此處で遣ります』清『無暗に遣つては叶けない、能く旦那の思召に叶ふか叶はないかを見てそれからのことにしなければ叶ん』源『ヘエ宜しうございます』と座敷へ通りました源吉は隅の處に頭を低げて謹んで居ります、家主は前に出て蛋の上に面箱を載せて待つて居る、暫く經つて觀世太夫は上段の間へ立出ましたが 觀『オー清左衛門といふはお前か、遠路の處御苦勞であつた、彫物師の源吉とかを伴れて來たさうで』清『左樣にございます、私が清左衛門と申して太田樣の邸内に居住をいたして居ります者でございますが、此者は邸内に居ります源吉と申して九尺二間の裏長屋ではございますが、そんなに汚くはございません、店賃は二百で、雜作が三兩二分、敷金が……』觀『コレ／＼然う雜作や敷金のことを此方が聞いた處で仕方が無い』清『然し宜い按排に店賃の滯りもございません、未だ年も若うございますが、能く稼ぎます、阿袋を大事にして、然し快いお天氣になりました』觀『何の話だへヽヽ、面を持參したか』清『其處へ差置きましてございます、何うか宜しくお檢めを願ひたい、寄の上とは上の面と申しますが、般若の面のことで』觀『お前が云ふんでも其の位のことは知つて居る』清『左樣でございますか』觀『何うも面白いことを云ふ男だ』と云ひながら觀世太夫は其の面箱を前に引寄せ紐を解き箱の蓋を取りまする 清『旦那樣餘程覺悟をして御覽なさらないと驚きますぞ、物凄ふございますから目でも眩さん樣になさいまし』觀『お前は餘程道化た男だな』清『左樣でございますか、泣ちやア叶けませんせ』觀『誰が面を見て泣く奴があるか』觀世太夫心中に餘程侮つて居りますので、彫物師の源吉が彫つたといふから、其の品を見るのも面倒だと思ふ位、不承不性に一寸紙に包んでありまする面を取て其面を一寸目見たが、是はヤ、ウヽンと觀世太夫もブル／＼と慄て居りまする、源吉さん、遜是を見て家主は 清『源吉さん、遜つては叶ないよ』と頻に心配をしてゐる源吉は兩眼を閉ぢ膝の上へ手を突き頭を低げたなり何と仰せがあるか觀世太夫の返答を待つて居る、觀世太夫は驚て其の面を取上げ、熟視て居りましたが、以前の容ふに引替て今は餘程感心の體 觀『コリャ清左衛門、此間は失禮をいたした、其處に居る源吉といふ人が彫つたのか』清『左樣にございます』觀『ウム……』清『如何でございます』觀『ウム……』清『如何でございます、貴下の御直申次第で御取扱ひになるので、御前へ出ますので』觀『何だ此の喉突きとブラ下りといふのは』清『それは跡でお話しをいたしますが、何にしろもう悉皆支度がしてありますので、愚と云へば此處で遣りますので、家では阿袋がブラ下るので、大變なことが出來ます』と清左衛門は觀世太夫の容子を窺つて居りまする。



書畫用 絖 京染晃服商 たまや出張店 京城永樂町一 電話二一九六番

皮膚科 外科 專門 廣田醫院 京城太平通二丁目 電話二二五八番

ふたり揃ふて散歩のかへり 寄ろかね村屋パン買ひに (京城明治町 電二八七〇)

明日 十一月廿一日 水曜 舊十月七日 丙寅 九星 本命四緑 羅 定 佛滅

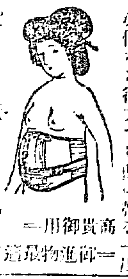
▲四綠 ▲五黃 ▲六白 ▲七赤 ▲八白 ▲九紫 ▲一白 ▲二黒 ▲三碧 [illegible]

月やく 月やくとまり月經不順の爲何となく工合惡く心配の方一度服んで安全に流經する妙藥私方に有三錢切手を封入申込あれ人助の爲お知らせす 東京四谷區 森田屋久子

最良のかぜねつ カギヤピリン
面白い程よくきく良藥なり かぜは藥 必ず本劑を服さ定て常に家庭に備ふ少でもかぜの氣味あらば彼是と手遅せぬ樣直ぐ服用せよ 面白い程効あり 小兒には專用の小兒カギヤピリンあり アンチヘブリン アスピリン等類似の他品あり御注意 五錢 十錢 廿錢 一圓 本舖 名古屋京町二 荒川長太郎

周易 岡村介石堂 明治町二丁目

▽高貴御用最上品 ▽帽子 ▽襟卷 特製上等品 東京市本郷區春木町二丁目 田中商行



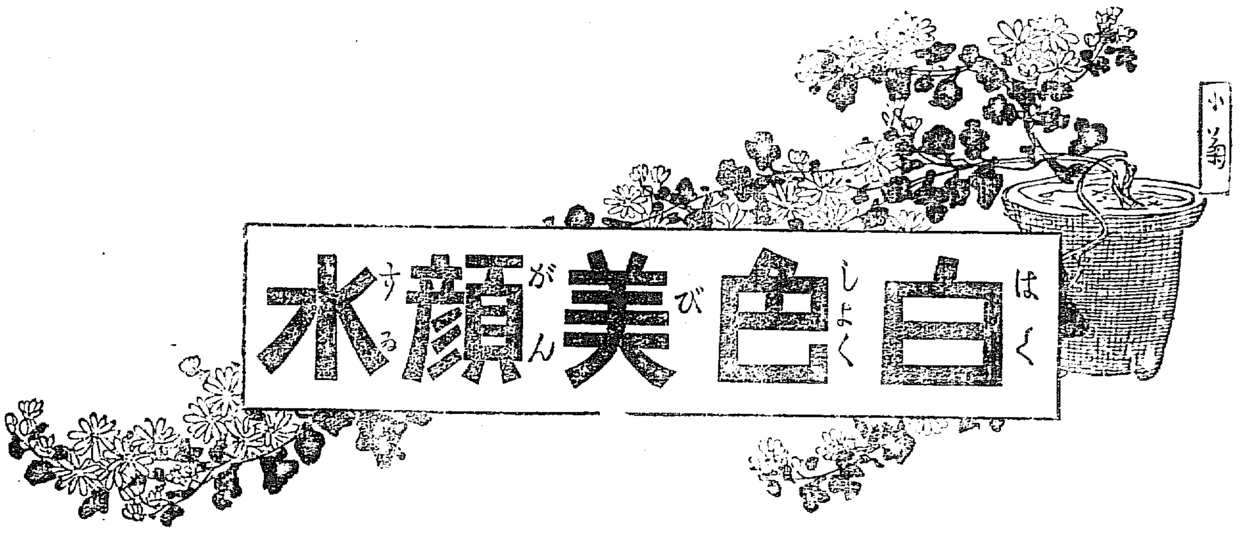
高貴御用 一御産御用品最一 御懐妊になれば妊娠に伴ふ鬱々とした氣分を除いて御身體は何となく心地よく出來て御産の間際迄激しき働をなさるも腹部は春の如くに爽快でお産は眞に安々と生れます、少しも苦痛を感ずる事なく御産の時には……何なる御方でも此の帶を一度

日本安産いわた帯は 醫學上から見て現代の醫學界の大家の研究された結果發明された最も進歩したる婦人の腹帶で、帝國議會にて都下發行の新聞雜誌に於て報じたる本品はタ、タ二つのボタンで締めはづしが出來て如何にも不思議な位腰に具合よく締めて上下にズレル事なく起居にも帶の中に入れてある總てのゴムが働き、何等の無理もなく『ヘ』の字の如く部を心地よく支へ上げ胎兒の位置を正しく又其の發育を適度に助く

金か子寶? 世界的大發明 家庭は今すぐ試みよ!! 安産を望む
質眞の如きお産が出來て産後の肥立もよく乳も澤山出て見樣はまるで肥て育つと云ふ實に不思議なる效力ある世界的の大評判となつた

艶本刊行會 會員募集 東京市淺草區芝崎町四十八 美青堂

花柳病 外科專門 ◎梅毒◎淋病◎泌尿生殖器病 ◎痔疾◎横痃◎皮膚病 婦人病◎神經衰弱ヒステリー 京城南大門通殖産銀行裏 司生堂醫院 電話三〇六五番



嬉しいと思召す事四つ

學校へ御通學の御愛孃ともぐ

御通學のお家を御訪問なさいふ場合學校には御勉強でも未だお化粧(の)方には其の中除りお構ひのない方々は、中々お化粧が美しく出來兼ねます。これは顏の地肌がお化粧附れしてゐないからで、全く無理のない事ですが、然ういふ場合に白色美顏水をお用ひになれば、誠に品のよいお化粧が出來ます。美しい、品のよいお化粧が出來ます。それから

肌地の荒い方 脂の多過ぎる

化粧をなされば、これは又何の勞もなく、すら／＼と行邁つて、誠に自然生れつきの色白かと見違へるばかり、すつきりと、高尚な、美しい／＼お化粧ぶりを發揮しますのです。それから又

方、これは丁度反對の方々ではありますが、お化粧が美く出來ぬ事は一緒であります。此方々は白色美顏水を常用なされば、毎も氣持よく、勞なく、美しいお化粧が出來ることいふお喜びに加へて、肌理は次第に滑かに美しくなり、脂の多い方は其爲めに出易い吹出物なども出なくなるこいふ、一寸反對した兩方によい成分を、此化粧料に含んでゐる事が判然分ります。されぱこそ白色美顏水は

汽車の時間等が迫つて大急ぎと

いふ樣な時、または御主人が外から御歸宅になること其儘一寸さあ直ぐ一緒に出かけよう。『洋服も脫がずに御在る樣な場合、其他何にしても斯うしたお急ぎの時などには、得てお化粧も變な工合になり度がるものですが、そこを白色美顏水を一寸お用ひになりますこ、狼狽る必要もなく、直ぐに充分美しい整つたお化粧が出來るのです次に

吹出物やにきび また顏色の工合

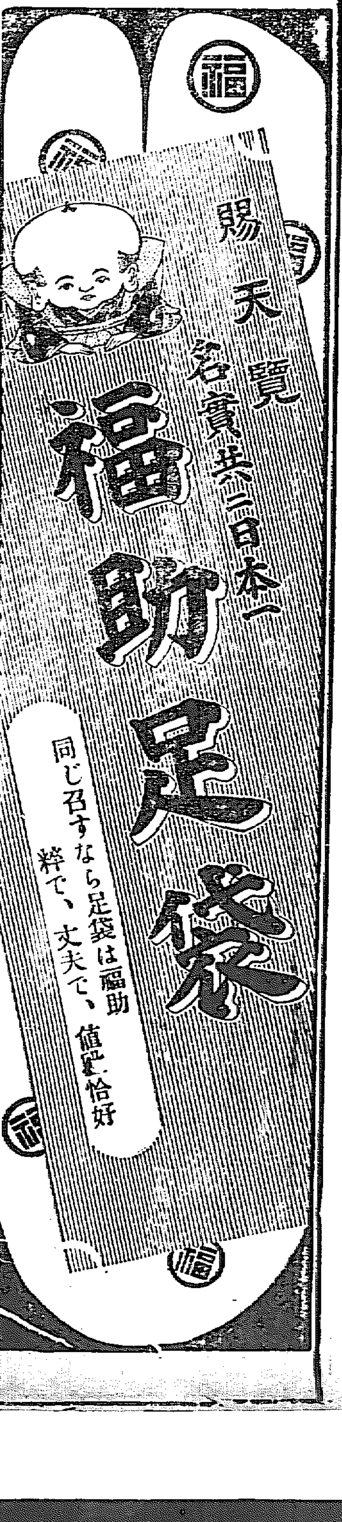
で何う骨を折つて見てもお化粧が思はしくなく、斑になり又變な色澤になり、濃く附ければ又白ペンキの樣で、如何しても工合が惡いこいふ樣な場合、白色美顏水でお

尊貴の御用品として御信用厚く

世の上中流御家庭の必要品こしてます／＼人氣を集めてゐる次第であります。萬一にも未だの方は、早く此學者の創製したる新化粧料にて、從來のお化粧の缺點をお取去りなさる樣お薦めします。

(定價一瓶金二十錢各化粧品小間物店にあり)

光榮ある白色美顏水を創製したる
桃谷研究試驗所
所長 藥學士 桃谷幹次郎
技師 理學士 西澤勇志智
同 醫學士 米倉昌達
同 千葉藥學士 小磯勝次郎
同 同 藥學士 齋藤銳助
顧問 藥學博士 丹波敬三氏
藥學博士 山本淳一氏



汽車時刻

京釜線(南行)	京釜線(北行)	湖南線(南行)
湖南線(北行)	京義線(南行)	京義線(北行)
京仁線	京元線(南行)	京元線(北行)
兼二浦支線	平南線	[illegible]

京城日報
二十日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

支那漫遊

蘇峯生

北京より十三陵

南口の鐵道ホテルより啓上。

十月廿二日午前八時過ぎ。北京西直門外の京綏鐵道停車場より上車。此の鐵道は明治三十八年より起工し、塞外の綏遠迄達す可き見込にて、今は張家口を經、大同府より豐鎭に通せり。資本も、技師も、一切支那人持にて、乃ち支那人の誇りの一也。予が十二年前、北京に遊びし際には、恰も工事最中にて、實は出來榮如何と心配しなりしが、思ふよりも、産むが易しとは此事也。技師長は詹天祐氏にして、米國エール大學の出身と聞く。仰山にも駱駝轎に乗りて往來したりし、昔遊を想へば、今昔の感に禁へざる也。

南口には十一時過ぎに著し、直ちに椅子轎に乗じて、明の十三陵に向ふ。此日秋陰、時に日光を漏らす。聊か冷氣を覺ゆ。高粱は已に刈り盡し、落花生は掘り盡し、蕎麥は收穫最中にして、已に麥の新芽を發するあり。又た三頭の牛、若しくは三頭の馬を列ねて、鋤き返し、麥蒔の準備を爲すもあり。滿郊の秋色、楊柳は疎黄に、柿や、梨の葉は殷紅也。而して遙かに長城の支線たる、殘壘の谷より嶺に駛るあり。烽火臺の峰頂に峙つあり。羊や、山羊の群がるあり。馬や、牛の野飼せらるゝあり、詩思、畫趣、史情、人を惱殺せずんば止まざる也。予等は十三陵の入口なる白石坊、卽ち大理石造の五架大牌門の下にて、サンドウィチを喫して行く。陵道荒廢、橋梁陥落、而して其の水清淺、明澄鏡の如く、遊魚少からず。予は嘗て兩長を顚より發ちつゝ、陵道に立ち列ふ石獸中の一なる、石獅の上に立ちて、撮影したりしが、今回は其の空間に在る石駱駝の上に立て、又た撮影せり。久しく思想したりや否や。果して十二年前の予を追想したりや否や。進んで天壽山の麓に至れば、長陵あり。其の門前の柿樹は、紅也。門を入れば、大殿あり。樓よりも過ぐれば、老松、老柏、而して最も多く老槲の柯を交ふるあり。特に其葉の霜を經て、焦茶、淺黄、薄茶、琥珀、其他の色彩に染め成したる、得も云はれぬ風趣あり。無骨の槲樹、亦た自から嬋娟を解する耶。此れより甬道を踏んで上れば、直ちに明樓に出づ。樓上に『成祖文皇帝之陵』の大字碑あり。樓より望めば、遠くして十三陵の鳥瞰圖、近くして長陵の面目、皆な眼中にあり。予等は更らに樓後の寶城、卽ち墓陵の山より、も大なる、十三陵頭に、秋草を踏み分けて降れり。永樂帝の建文帝に於ける、猶ほ天武天皇の大友皇子に於けるが如し。帝は正人君子にあらざるも、明代の皇帝としては、太祖を除けば、恐らくは第一流の豪傑たりしならむ。

石人不語立秋風、楊柳疎黄柿葉紅。十三帝陵荒艸裡、壽山終古翼翼雄。

歸途は京山にて自から綴れたる、崇禎帝の思陵を經過して、午後五時半に南口に歸宿せり。晩餐の後、筆を調きつゝ、燭を點じて、直ちに本文を草す。明晩は張家口に一泊の豫定也。

大正六年十月廿二日午後七時十五分、南口鐵道ホテルの食堂にて

大演習地と史蹟（三）

香霞生

▲武佐● 武佐は古き地名なり古へ武佐驛を置けり又其北方に御所内と呼べる地あり蓋し武佐行宮の遺址ならんと云ふ（聖武、桓武の兩帝蒲生の野に行幸の事あり又後光嚴帝も此附近に行幸あらせられし事あり孰れかの行宮ならむ）六角氏の盛時には觀音寺山の城下町として繁榮し倉庫等を置けり天文十三年六角義賢の國に令して新枡を作り在來の一升より二合を減せしむ之を武佐升と稱すと云ふ或は云ふ天正中長東正家の創むる所なりと

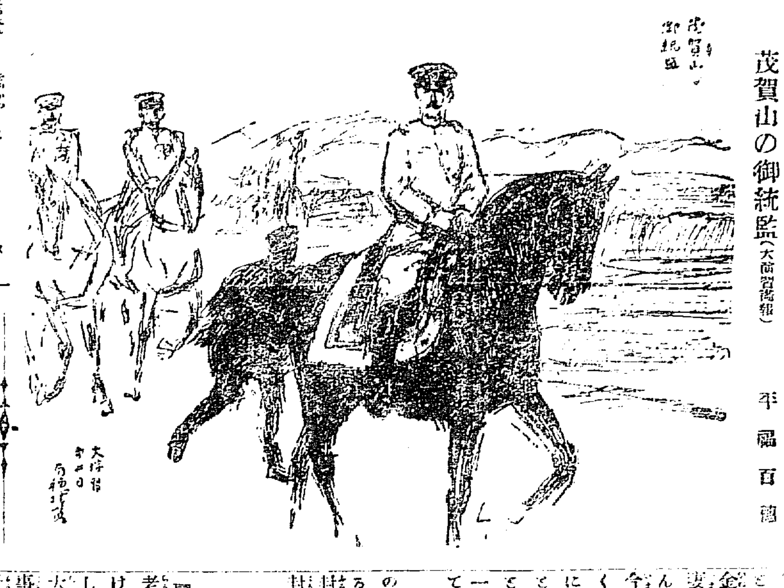
▲長光寺城址● 長光寺は一に武佐寺と號し著名なる古刹なり因て以て地名と爲す其側に長光寺山の城址あり柴田勝家の籠城を以て著る

▲長光寺城の戰● 元龜元年の春織田氏の長臣柴田勝家、兵四百人許を以て長光寺城を守備し以て京畿と岐阜との連絡を爲せり六角義賢入道承禎兵四千餘人を糾合し一舉に祖國を恢復せんと欲し鯰江城（愛知川の右岸にして八日市の東方一里餘）を發し五月二十一日進みて長光寺城を攻む勝家士卒を指揮して防戰せしも遂に外郭を占領せられ本城に退嬰して堅守し時々出擊して六角軍を惱ます承禎大に之を患ふ或人策を獻じて曰く此城井水なく覓を以て水を引けり之を斷たば城兵渇して守る能はざらんと承禎大に喜び水路を斷つ城兵果して大に苦しむ六月三日勝家貯水を檢するに二石入の水瓶只三あるのみ乃ち人馬に此水を分與し勝家自ら薙刀の石突を以て瓶を破り以て必死を示して曰く『水盡き又後援なし其渇に死するよりは如かず敵に向ひて死せん』と六月四日未明勝家自ら先頭に立ちて進み四百の士卒之に從ひ大喊して敵陣を突き縱橫衝擊す六角軍不意を襲はれ狼狽潰亂し鯰江相模守、三雲三郎左衞門以下戰死するもの八百人許、承禎大に敗れて鯰江に走り六角氏の運命益々蹙まれり信長大に勝家の奇功を賞し感狀を與へて瓶破柴田と呼べり是に於て瓶破柴田の勇名天下に震ふ

▲三、河瀨● 高宮附近

▲尼子● 高宮町の南方約一里に尼子あり佐々木高秀の二男高久、此地に住し尼子備中守と稱す出雲の守護と爲り出雲に移り戰國時代に及び家聲大に振ふ

▲肥田城址● 河瀨停車場の西南約一里に在り永祿中高野瀨備前守秀澄此城に住し淺井氏に應ず佐々木承禎其子義弼大に怒り永祿三年四月三日父子兵を發して之を圍み城の周圍に距る五十八町の堤を築き宇曾、愛智兩川の水を堰き入れ築堤の成るに從ひ水攻を實施す然るに五月二十八日洪水起り攻城の爲めの築堤を破壞し水攻の策全く水泡に歸せり是れ我國戰史上に於ける水攻の嚆矢と爲す



茂賀山の御統監（大演習寫眞）　平福百穗

誰（129）

布施生譯

それからサンレミイの公證人に電報を打つて八島家に關する委しい報告を取寄せる手筈にした、就中賴太郎の身の上を委しく賴んだ、それから例の匿名の手紙の智慧を借りて警察に出かけ保部の經歷を聞かせて貰いたいと賴込んだ、處が警察と云ふ者は中々そう平人の依賴に應じておいそれと警察の手箱をあけてやるやうな簡單なものでは無い、それには上官からの命令が必要であつた、警察では老人が何人の經歷を知りたがる理由を尋ねた、老人は勿論答へかねた、それぢやあ檢事の方へ御照會なさいと云ふ事になつたがしかし老人はそれもしたくは無かつた、老人は自分が自ら裁判官ともなり執行官ともなりたい希望であつたから態々警察まで出かけて往きながら要領を得なかつたのに不機嫌で歸つてくると一度サンレミイからの返信が届いてゐた老人は慄へる手先に封を截つた

『八島家は舊家なり、家族中に賴太郎を名乗る者無し、家に雇はれたる者に二人あるのみ』

『怪しからん。』老人は暗然として呟いた、[illegible]匿名を[illegible]者が吾家に入込んでゐると云ふ事になる、妻の罪は自分が疑つたよりはずつと大きい『家内の奴此奴を傭へ引付けて置きたいばつかりに有りもしない男の名を騙らせて吾家へ入込ませ居つたんだな、それとも知らず己は彼奴を可愛がつて金を遣り――』老人は考へ込んだ妻と栞とが自分のお心對しに附込んで此樣な計策をしたのだと思ふと今迄馬鹿にされてゐたのが口惜しくて／＼、老人は今はもう死ぬ外には迚も此胸の收まりやうは無いと迄に思詰めた、しかし暫くたつと老人は復思返した『よし今度は一つ己の方から彼奴等を一擧にはめてやるぞ』

其決心の下に自殺をせずに次の朝になるとヴエルネの職業のある手紙が一通老人の手許に届いた封筒を破らぬやうと大事にかけて封を開き中の手紙を取出してみると

『是非〳〵御目に懸り度、御面倒ながら御出向の程待上候、賴太郎より。』

とあつて名宛は妻になつてゐる

『よしもう踏捕へたも同然だぞ』老人は氣も上づりながら簞笥をあけて短銃を取出し擊鐵を檢べ裝彈して棚の上に置いた、それから賴太郎の手紙が自分の手に這入つた事を知らせぬやうに丁寧にそれを封じて坐敷の手紙挿に挿みに往つた、其僅の間、ほんの二三分部屋をあけた其間に美那子が素早く一細工試みた事は流石の老人一切氣がつかなかつた、美那子は拔足差足で夕方の入口から入込んで老人が今籍めたばかりの彈を拔取り『まあよかつた、之から壁尾さんに賴んで御機嫌樣にお知せして貰ふわ。』

一時間ばかりして保部夫人が出かけたのを見濟まして老人は自分も急いで馬車を雇はせ同じ方向に奔らせた、別々の忠を載せて二輛の馬車がヴエレネを指して駈けてゆくのを見送りながら美那子は胸に手に汗を握つた『あゝ嵩禱樣が丁度の時に往合はせて下されば可いが』

咸鏡線　清津會寧間全通　五十九哩

來る十一月二十五日より咸鏡線淸山會寧間運輸營業を開始し清津會寧間を通じ旅客貨物の取扱をいたし候

新設停車場　中島、會寧

中島停車場にては旅客手荷物並一車扱大貨物に限り取扱可候

南滿洲鐵道株式會社京城管理局

實業之日本

金儲けは實業の目的か手段か　新渡戸博士
此武器を取れ　浮田博士
發明獎勵根本策　[illegible]博士
樂觀すべきか悲觀すべきか
財界判斷
鐵禁が全然解禁にならうか 綿花の輸入見込立たずとせば如何にすべきか 羊毛の禁輸は果して事實となるべきか 生絲　藤山雷太
悲觀を要せざれども戰爭終局の後は　成瀨正一
眞原因　米國の鐵禁は何に因るか　眞動機　米國の禁金は何の爲めか　眞事情　生絲禁輸説を流布した理由　堀越善重郎
峠を越えた好景氣　井上博士
新設會社專務總評　渡米小學校長第二信來る
眼から難病を癒した實例　前田博士
最新カルシューム療法　櫻田學士
老衰若衰の連中へ
虎肉の御馳走　山本唯三郎

十一月十五日發行　定價一部十五錢　郵稅一錢　半年分二圓廿五錢　一年四圓廿五錢　東京京橋　實業之日本社　振替東京三二六番

活字製造販賣　並に活版附屬品一式

京城明治町二ノ四八
竹內活版製造所
電話三〇四〇番

多數御注文には大割引古活字よりも安く經濟的に有之候
弊所は期日の正確と營業振の堅實とを旨とし努力勉强致候間多少に不拘御用命願上候

東京時事新報社發行
少年　少女
三大子供雜誌
本日最新號出來
▲定價各十錢 六錢 郵稅一錢半
▲各地雜誌店賣捌全國

第六十七回　勸業債券（拾圓券）賣出

■總額　七百萬圓利子年四分（每年三月拂）
■賣出　十二月一日より十五日まで
當銀行、各地代理店、取扱店並に各地郵便局にて賣出す、當銀行より直接郵送の場合は通數の多少に不拘郵送料金拾錢を申受く
■くじびき　初回は明年二月（割增金總當り）以後五箇年間は年三回（二、六、十月）其後は年二回
■割增金

等級	金額	初回	二回目以後每回
一等	貳千圓	二十一本	七本
二等	百圓	三百二十九本	三十五本
三等	拾圓	四百九十本	三百五十本
四等	五圓	一千一百六十本	六百五十八本
計		二千一百本　八萬六千壹百圓	一千五十本　武萬四千貳百九拾圓

大正六年十一月
東京市麴町區內山下町（振替貯金口座東京第四番）
日本勸業銀行

朝鮮總督府屬　普成法律商業學校講師　西村眞太郎著　最近發賣

日鮮會話精通

袖珍總クロース美本　七百餘頁　定價金壹圓參拾錢

一、本書は高等程度の會話書にて現今行はるゝ會話中に發見する能はざる必須語を多數に掲載せり
一、本書は凡そ社會全般の事物を網羅し盡して收めたれば之を一つの國鮮語辭書として見る事を得べし
一、本書は內鮮人を問はず通譯事務に從事する人の最新最好の參考書なり
一、本書は各學校の會話教材に最適當の事項を集めたり本書は各種講習會の良參考書たり
一、本書に揭げたる內鮮俚諺數百は皆新しき對譯法を用ゐあれば一讀直に其の眞意を知りて實地に應用する事を得べし
一、一般に鮮語を解し得たりとするも其の智識のみにては甚だ覺束なきものならずや本書は貴重なる新譯語を以つて充滿せり
一、玆に朝鮮語を今一層確實に研究せむとする人士あらば速に本書を購求して座右に備へられよ、朝鮮語の蘊奧は本書に依りてのみ極むる事を得む

發行所　京城大平通一丁目　振替京城三〇番　京城日報社代理部
取次所　京城本町一丁目　大阪屋號（振替京城二五七三番）

殺虫　防臭　殺菌
黑岩式　固形石油乳劑
定價（一打入　金二十八錢　半打入　金十五錢）

▲本品の特徴
一、從來水と油とは分離し易きものなるも本固形石油乳劑は黑岩工學士多年苦心研究の結果創製せられたるものにして其特效は石油と水とを完全に混和せしめ...
▲効用
▲使用法

朝鮮總發賣元　京城本町　熊平支店
長距離電話六二四番　電話三壹一五番　振替京城貳貳番
●特約店募集　至急御申込み被下度候

發行所　京城太平通一丁目　京城日報社
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川三之介

○ケレンスキー氏逃走說

カ將軍との連絡困難

十六日ハパランダ發電に依ればケレンスキー氏はレツト種族（西露西亞人）二萬人反對派に參加せし爲め敗北せる結果遂にペトログラードより何れにか逃走し今やカレデン將軍と連絡を執らんとしつゝあるも能はずとの說あり（倫敦電報）

○又も過激派の天下

露國過激派はガチナを占領せりケレンスキー氏の參謀部長は捕縛されケレンスキー氏は何れにか逃走せり過激黨會議は露國々內各民族は任意政府を組織し分離及び獨立自治の權ある事を宣言したり（倫敦電報）

○聯立內閣組織か

露國は社會黨各派を糾合し聯立內閣を組織すべしとの說高し（倫敦電報）

○ウクライナ獨立

ウクライナ會議はウクライナの獨立を布告したり（倫敦電報）

○獨軍シスモネ占領

獨軍はシスモネを占領し益々進軍中なり（倫敦電報）

○三國皇帝會合

クリスチアニア來電＝瑞典、諾威、丁抹三國皇帝は來る廿八日クリスチアニアに會合すべしと傳へらる（倫敦電報）

○國際平和會議

ナリツヘアポスト紙の探知する處に依ば十一月十九日瑞西にて國際平和會議開催せらる可しと（倫敦電報）

○伊軍大に盛返す

敵は十七日フオリナ及びフアガレにてピヤヴエ河を渡れりフオリナにては伊軍の砲兵は敵を全滅せしめて捕虜三百名を得フアガレにては捕虜六百名を獲殘る獨軍に對しては盛に銃丸を浴せ以て敵の同河引返しを阻止しつゝあり（羅馬電報）

○伊軍敵攻擊支持

羅馬公報に曰くアシヤゴより海岸に至る伊軍の戰線に對し獨墺軍は猛烈なる攻擊を頻繁に試みつゝあるも伊軍は克く陣地を支持し却て之に逆擊を加へつゝあり（倫敦電報）

○豫算確定

大藏省にて查定中の來年度一般會計各省豫算は十九日最後の商議を經て查定確定したるを以て直ちに內閣へ回附の運となり豫算會議は廿日より開催さる可（東京特電）

○日華博計畫

來秋北京に開催

全國商業會議所聯合會議の決議に基き日華博覽會を明年秋北京に開催すべしと傳へらる（東京電報）

○羅國特使參內

信任狀捧呈

今般我國と條約締結の目的にて來朝せる羅馬尼特使ニコラス、セーボール氏は十九日參內謁見仰付られ信任狀を捧呈せり（東京特電）

○宮尾長官來安期

宮尾關東都督府民政長官は目下滿鐵沿線視察中なるが二十七日朝來安視察の豫定（安東縣特電）

○石塚東拓總裁

石塚東拓總裁一行は廿日朝五時半奉天より來安新義州に一泊廿一日發京城へ向ふ豫定なりと（安東縣特電）

○堀滿鐵技術局長

堀滿鐵技術局長は二十三日來安二日滯在の上朝鮮線視察の爲め南下す可し（安東縣電報）

○橫井氏朝鮮行

橫井滿鐵技術研究所技師は安東縣にて一行と分れ朝鮮に向ふ可し（安東縣電報）

◎世界造船能力

昨大正五年十月より本年四月に至る七ケ月間の新造船數は總計七百[illegible]

英國	[illegible]	[illegible]
米國	一五一	[illegible]
和蘭	一〇三	[illegible]
日本	[illegible]	[illegible]
露國	五	[illegible]
葡萄牙	三	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]

◎支那に於ける日本の時務

經濟的勢力の扶殖が緊要

在上海帝國總領事　有吉明氏談

先づ北京の政變、隨て地方の擾亂といふ風に、恁う度々繰返へされては、支那自國の發達を阻害すること一通りでない、實に困つたものだが、さればとて日本の新聞などで傳へらるゝ如き、太したこともない、督軍が獨立を宣言したなどゝ、如何にも大袈裟に報道さるけれども、宣言しなくとも、事實上、各省の督軍は中央に對して

▲獨立同樣の關係に在るのだ、今の督軍は、淸朝時代の總督だが、淸の末造に於ける總督は、矢張り獨立してゐた、故に督軍の獨立といふのは、別に事新らしく騷ぎ立てる程のことじやない、唯獨立を宣言するのが、北京政府の政變に伴ふので、國際間の交涉なども自然遲延することに成るのみならず、時には

▲何處に談判を持込むで可いか分らないこともあつて、政變の起る毎に、第一に困るのは外交團だ、併し如何に困つても、支那が何時になつたら完全に統一さるゝかは、例へば難解の謎の如きものであらう、仍て日本は、頻發する支那の擾亂が、別段懸念するに及ばないのを幸に、ドシ〳〵緊急なる時務を進めて行く外はあるまい、日本の支那に於ける時務中、最も緊要なるは

▲經濟的勢力の扶植だが之れも通信機關などの報道するが如く兎角悲觀すべき狀態ではない、問題の日支爲替銀行は何うなつてゐるか、此問題は北京に生れて、北京で育てられたので、我輩は其詳細を知らない、今次歸任の途中北京に立寄つて成行きを聞きたいと思つてゐるが、縱し同銀行の問題が如何なる落着を見やうとも

▲我支那貿易には、現在にても甚だしき不便は感じない位だ、殊に上海に於る日本の銀行は現に正金、臺灣、住友の三銀行がある、三菱、三井兩行も支店を開設する筈で、現に其の認可を與へて置いた、尙朝鮮銀行も支店設置の準備中である、即ち近き將來に於て六銀行を有することゝ成り、丁度外國銀行の

▲總數と匹敵するのである、而して正金、臺灣兩銀行の一覽拂手形は圓滑に流通してゐる、以て我經濟上の勢力の一班を想像することが出來よう、其れにしても支那の關稅引上げが、愈實現されたる曉、其が日支貿易に及ぼす影響、延いては我一般經濟上の發展を杜塞する無きや否やは、我國に於て問題と成つてゐるらしいが之れは今日に於て豫斷することは出來まい、但し

▲其の對應策として日本の資本家が支那に事業を經營し、關稅の減免を圖るのは好い思附きである、從來支那に於て日本人の經營せる紡績などは可なりの好成績を擧げ、上海のみにても二十萬錘に上れるが、更らに錘數の增加を見るであらう、勿論日本人に適する事業は、單に紡績許りでない、起すべき事業は多く發展の地は廣い、政變や擾亂を離し立つるよりも、此方が緊要なる時務ではあるまいか。

◎益有望なる朝鮮の木材（上）

＝內地木材界の不振＝

營林廠長　齋藤音作氏談

福岡市に於て開催されたる九州林業大會に臨席し就いて九州各地林相視察を了へて此程歸任せし齋藤營林廠長を訪問し談を叩く

▲九州の工業勃興　近來北九州に於ける工業の發展は實に素張らしいものである、是は工業に必要なる燃料が豐富なのと朝鮮滿洲支那各方面に對して優勝なる位置を占めてゐると云ふのが大なる原因である而して此の工業が發展し次から次へと諸種の新事業が企畫され實現され、從つて工業に要する燃料即ち石炭の需要は愈々增し其の採掘量は益々旺盛となる、此の趨勢に準應して木材の需要は異狀な勢を以て擴大される、爰に於て是れ等諸種の事業工業は今日では殆んど木材の供給奈何によつて消長すると云ふてもいゝ迄に進んで來た

▲九州の死活問題　斯くの如く北九州の工業と木材とは密接緊要なる關係を有するにも拘らず、九州の木材界は實に寒心に堪へざるものがある、即ち北九州の工業に要する木材は九州は勿論日本內地では到底供給し得ざる迄に內地の森林は伐採され涸渇してゐる、假に門司より鹿兒島迄の鐵道沿線の林相を見ると神社佛閣等の境內にて到底斧を入れる事の出來ないものを除く外所謂雜樹の木とも稱すべき木材は一本も見當らぬと云ふても差支へない、是れは實に九州工業の死活問題であると同時に九州の死活問題である、今にして之れが救濟策を講ぜざれば噬臍の悔を千歲に貽す憂がある、

◎入江書記官發期

入京中なる拓殖局書記官入江海平氏は二十一日朝出發東上の豫定なり

◎老人禊の招待宴

子爵趙重應氏其他十七人の京城古老より成る京城老人禊にて十九日午後六時より松永道長官鹽澤警務部長其他目下隊長會議に來會中の內藤隊長を明月館に招待せり

◎判任試驗合格者

過日總督府にて執行されたる判任見習試驗受驗者中筆記試驗に合格したる者四十七名に對し口述試驗を行ひたる結果合格者內地人二十四名、鮮人十八名合計三十四名あり合格者に對しては十六日夫々通知を發したりと

◎內航運賃下向

內國航路に於ける貨物運賃は漸次下向の傾向を呈しつゝあり（東京）

◎商議改選運動開始さる

京城商業會議所評議員改選は旬日の後に迫まれるが之と共に各方面に於ては既に運動に着手せる模樣なるが南大門驛の運送取扱業者運送店、河村千太郎、立石幹、松本榮、野田源五郎、樋口伊勢吉、友田鎌之助、中條半五郎、川井田彌二郎の諸氏は京城運送業組合長として內國通運株式會社支店長たる村瀨鎌治郎氏を候補者に推薦し村瀨氏は立候補を諾したりと傳へらる

◎有吉總領事入京

在上海總領事有吉明氏は北京へ赴任の途次十九日夜入京朝鮮ホテルに入れり氏は京城に二泊し二十一日出發奉天、北京を經て歸任の豫定なりと

◎鹽澤大佐巡閱

鹽澤京畿道警務部長は仁川江華兩警察巡閱の爲め往復約十日の豫定にて來る二十二日出發すべしと

●淸會線開通式と道尹●

間島延吉道尹張世春氏は來る二十五日擧行の淸會線開通式參列の機を以て淸津及び鏡城地方を視察すべしと

●滿鐵業務研究所員の視察●

滿鐵業務研究所員橫井、三本、稻垣の三氏は視察の爲め來る廿六日午後五時半來安一泊廿七日午後八時四十分發歸任の途につく筈（安東縣）

○馮總統內閣へ望む

段內閣は留任決定後直ちに內閣會議を開きたるが馮大總統は張秘書長を內閣に派遣し改めて陳べて曰く『政治上の事は別に陳述の要無き如くなれど今後一切の責任を覺悟されたし』と（北京特電）

○四總長辭意堅し

財政總長梁啓超氏は今明日中再び辭表提出に決し內務總長湯化龍、司法總長林長民の兩氏も亦近く辭職す可し汪外交總長は就任を肯ぜず（北京特電）

○湖南督軍省長の免職

傅湖南督軍及び省長は十八日入京徐世昌氏に縋り段總理に會見を求め任意辭職の謝罪を爲せり然も段總理は之を肯ぜず兩名を免職處分するの命令を發せり而して湖南總司令王汝賢氏を代理督軍に任じたり（北京特電）

○國務會議開會

段內閣員は十六日國務會議を開き善後策を議協せり（北京電報）

○支那紙時局評

支那新聞紙中政變半にして馮總統の態度一變し段總理の留任を決せるは林駐支公使の非公式的警告に依るものなりと報道するものあり（北京電報）

○支那紙幣下落

支那今次の政變にて中央交通兩銀行の紙幣は七百十八元より六百元に下落せり（北京電報）

支那未曾有の大洪水に際し天津在住の同胞並びに支那水害罹災者を救濟する爲め設定されたる天津[illegible]緊要なりと冒頭し本會への寄附金は暫く京濱間の有志者の義捐に範圍を止むるも其他重要都市の[illegible]みたり

今回の水害は直隸河南山東の百八縣に亙り面積は我九州以上の[illegible]

に支那側の罹災地に至りては慘狀を極め居れり復舊の爲め非常手段を講ずるに非ざれば十年、十五年を經過するも放任の儘に[illegible]めつゝあれど恐らく此金額の數倍の費用を斷くるに非ざれば完全なる復舊は望まれ難からん因て本會は事務所を東京商業會議[illegible]

◎大阪財界便り

大連より

▲肥料界見直す　一時豆粕は三圓五錢の低落を見るに至りたるが流石に需要期とて配合肥料の賣調談相當にあり之を動機として各肥料とも商勢見直し豆粕は十一月物三圓五十錢十二月物三圓五十一錢現物三圓七十錢硫安三百二十圓硝石二百十圓撚みを唱へられ燐酸は協定相場二圓なれど一圓七八十錢撚みを唱へられ居れり

▲羊毛需給調查　滿洲羊毛分與の交涉は引續き行惱中にて僅に政府用五萬俵の輸入承諾を受けたる外民間用は依然輸入の見込なき狀態にして羊毛の自給に就ては十分の方策を講ぜざるべからずとし農商務省內臨時產業調查局第一部第四課（羊毛課）にては目下羊毛需給に關する根本調查中なれば近く何等かの施設を見るに至るべきが當局の談に依れば最近一箇年間に於ける羊毛の輸入額は三千五百十三萬六千斤價額三千三百五十萬六千圓にして我需要額は右輸入額と略同額と見て大差なかるべく而も我生產額を見るに緬羊飼育頭數約三千頭羊毛推定年額約一萬五千封度卽ち需要高に對し九牛の一毛だも及ばざる現狀なり仍つて將來我內地に於ては農家の副業として飼育の獎勵に努むると共に殖民地を始め滿蒙等に於ては特に供給增加の方法を講じ以て自給の途を開く可く目下小平事務官を滿蒙に片山技師を朝鮮に簡派し實地踏查を爲さしめ居るが近くは又岩波技師を臺灣に派遣することゝなり居り（大阪支局）

百聞百種

露國のゴタ〳〵は實際ドウなつてるのやら一向判らないが▲一體內亂時代には何處の國でも眞相などが判るものではない▲なにせ其れから其れと事件が續發するのだから第二の事件が起つた時分には第一の事件は消へる▲第三の事件が起つた時には第二の事件が消へると云ふ譯である斯して亂れに亂れると百年も經なければ全くの眞相は判らぬよとは某外交通の悟り話▲而し露國での勝敗は唯哥薩克兵の嚮背如何に在りだ▲哥薩克兵は自分達の肯ふことを肯かぬものは片つ端から殺して仕舞ふ▲だから彼等の前には殆ど敵がない最初革命が持ち上つた時も政府の兵隊は露都を守つて居た▲併し要所々々を固めて居る憲兵が巡查を如何にも哥薩克兵らしく見せかけてやつたので哥薩克兵が怒り出し▲急に中立を宣言したと同時に政府はガタ〳〵と倒れて仕舞つた▲先日コロニロフ將軍とケレンスキー氏と睨合つた折にも▲兵隊同士は戰爭する氣は無かつたがケレンスキー氏が勝つたのは哥薩克兵を味方としたのみの理由だつた▲だから今や哥薩克兵は全露國の死命を制する地位に在ると▲某外交通は頻りに哥薩克兵萬能を語つて居た

金融組合登記公告

[illegible]

朝鮮總督府馬山出張所

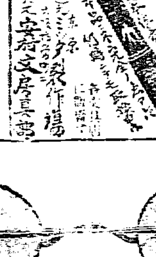
一、石炭（切込）拾八萬斤

右購買ス詳細ハ十一月二十日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

朝鮮總督府

十四金ペン先　スワロウ印　萬年筆

二円五十錢ヨリ八円迄

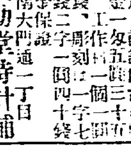


製造元　東京　[illegible]

朝鮮特約大賣捌　[illegible]文房具店

純金指環御安致升

朝鮮の一寸職工が製作致候



責任　保證

小判形、六角形、四角形、前記印台に刻字一個三十錢、五十錢、一圓

純金保證

代金引替の御注文に應じ候

京城南大門通一丁目

友助堂時計舖

電話二九七七番　振替一八九五番

最新刊

書名	著者	定價
商業資金の運用	興梠宗太郎	一、八〇
法律に關する心得	安達元之助	一、四〇
稅法便覽	鹽島硯山	五五
模範の日記文	水野葉舟	九五
青年の力	後藤新平	六〇
乾電池と濕電池作附取扱法		八五
自修英語討成	日本英語通信會	八五
精神分析法	久保良英	一、五〇
一品三錢で出來るおいしい料理	割烹講習會	六五
極意新式圍碁寶典	鈴木爲次郎	六五
新譯東海紀行精解	[illegible]	一五
世界奇聞全集	[illegible]	三、〇〇
美術の都	澤木梢	一、六〇
生くる日の限り	吉田絃二郎	一、二五
小さき芽	小河彥太郎	一、〇〇
死	有島武郎	五五
ファウスト（脚劇）	森林太郎	二、〇〇
煙草と惡魔	芥川龍之介	四〇
鼠の皮	上司小劍	三五
結婚の幸	谷崎精二	七五
いかれものの唄	[illegible]	九五
新文學概論	本間久雄	七五

京城本町四丁目　電話六八四・二〇八六・振京城二五七三

大阪屋號書店

松露すし

家庭料理用口取

外鍋るい

大勉強

御用命の節は速時調進仕出し仕候

外砂糖漬物寶藥髮用香油化粧品類

遠近を不問御届仕候間多少に不拘御用命奉願上候

京城南大門外集會所隣

電話一五七四番

（大）福島屋

當社は日本火災保險會社と姉妹の關係あり[illegible]藤山雷太、志方勢七、川崎八右衛門其他[illegible]せる會社にして低廉なる保險料を以て[illegible]

東京市京橋區銀座一丁目

日華生命保險株式會社

京城黃金町三丁目

朝鮮出張所

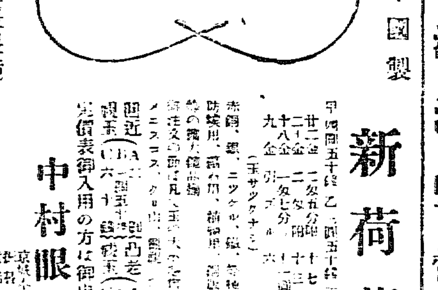
奉天大街

滿洲監督所

長電話二三三二番　振替京城四六八四番

米國製

新荷著



金張眼鏡

[illegible]

中村眼鏡店

京城本町一丁目

破天荒の試み

世界的體育會と新輸入の文藝寫眞

十一月二十日より廿四日迄五日間限

▲米國新歸朝、美形二十五人、滿六年間米國マジツク界に東洋の花と謳はれたる其藝術は愈々本日より有樂館に公開せらる

半島演藝界の權威

有樂館

◎天下一大勝

以上の大奇觀

伊太利エクレツチツク社代表的特作映畫

古典文藝　羅馬史劇

◎ローマの騎士　八卷

伊太利エ社の新輸入フキルムにして世界的文藝寫眞

撮影日二ケ年間　出演俳優二千人

撮影費用百五十萬圓　興行權利金二三萬圓

▽伊太利の古蹟及北アフリカの廢原を背景として數千の俳優が古代ローマの人情風俗を通りて演ずる盡し近來の傑作

▽觀覽料壹等六拾錢貳等金四拾錢參等金貳拾錢四等金拾錢

▽本興行中に限り從來發行の各種觀覽券は一切通用不致候

廣告

海上運送保險業務開始

弊社

今般東京海上保險株式會社京城代理店を引受候に就ては本月十九日より業務開始致し候間何卒御用命被仰付度此段希上候　敬白

東京海上保險株式會社代理店

三井物產株式會社

京城支店

……萬噸の船舶を建造すべき旨夫々聲明し居れるが最近世界に於ける船舶の實際建造能力如何を徴するに

▲之れを各國別に示せば

國名	隻數	總噸數
諾威	[illegible]	[illegible]
丁抹	[illegible]	[illegible]
瑞典	[illegible]	[illegible]
西班牙	[illegible]	[illegible]
智利	[illegible]	[illegible]

……の世界船舶建造高は三百五十萬噸を超ね得ざるべしと

大演習行幸に際し 一家三人贈位の光榮 に浴したる京都の碩學若垣家

今度特別大演習關係地方に於ける勤王家及び學者に贈位の御沙汰があつたが其の內に京都の碩儒贈正五位岩垣彦明、贈從四位同松苗、贈從五位同六藏氏の一家が三人まで贈位の光榮に浴したのは殆ど稀有の事である。幸び子孫は六藏翁の孫に當る……の曾孫に當る……氏は記者に語つて曰く

故岩垣彦明翁は京都で公卿の下役とも云ふべき堂上方であつた、號を龍溪と云つて初めの公卿の學者である伏原宣光翁の門から出で文化文政即ち史家の所謂る化政の遊古堂といふ塾を開き盛んに公卿や堂上方に尊王の思想を鼓吹したものである、夫れから

◎龍溪翁の後繼は 門人の松苗といふ學者が繼いで岩垣と改姓したのである、此の人は東亭と號して一時學生間に『日本外史』と共に非常に流行つた『國史略』を著はしたのは實に此の東亭先生である。日本外史が一代の國民思潮を尊王の大義に導いたといふ功動の大なると共に、當時衰微せる皇室の尊むべき事を盛んに鼓吹した『國史略』の功績も亦た沒すべからざるものがある。尤も東亭先生は北朝の皇室を戴てゐた時の事であるから北朝を正統として立てある點はあるが、其後を襲つた之も養子の

◎六藏翁に至つて は號を月洲と稱して水戸侯に聘せられ大日本史の編纂に從つたのであるから南朝を正系とする意見を以てゐた。月洲翁は明治六年に故人となつたが晩年に至り不幸にして失明したのである、故岩倉見視公や故三條實道公其他幕末の勤王家は悉く此の月洲翁の門より出たのである。月洲翁が安政四年に著はした漢文の小說『征西快心編』は當時英國が印度を屬國にした時の事であるから、夫れを仕組んで小說に綴つたものである、其の內容は水戸侯が

◎三千の精兵を率ゐて支那と同盟して英軍を印度より驅逐し遂に印度を獨立させたといふのが骨子である、斯んな風で當時の蘭學者、新宮凉庭、其他知名の外國語に通ずる學者と盛んに交を結んで大に滿腔の經綸を吐露したものである、今以て先生の門下生では學者として杉浦重剛先生があるが、故近衞篤麿公も矢張り子供の時分月洲先生の教を受けた事がある。現に杉浦重剛氏が早く渡歐して新智識を輸入したのは全く月洲先生の慫慂に基く所が多かつた樣に記憶する。話は前後するが

◎二代目東亭先生の『國史略』は後陽成天皇の聚樂第行幸で筆を止めてゐる、之は孔子が『春秋』を作るのに筆を『獲麟』に止めた筆法に擬したのである、孔子は、魯人が麒麟を獲たので聖人の道が行はれるであらうと云ふ意味で『春秋』の區切を獲麟で結んだのであるが、東亭翁も之に則つて區切を太閤の赤忠で結んだのである。則ち太閤が、聚樂第へ後陽成帝の行幸を仰で德川家康や前田利家や其他の

◎勢力ある武將の前で、臣下たる者は皇室を飽迄も奉戴して尊崇しなければならぬと云ふ誓を立てた事蹟である、維新前の當時の狀勢として皇室の衰微を挽回するには何うしても太閤の赤誠を激賞せねばならぬ事情があつたからで、此の一大美擧で筆を止めたのは非常に周到なる用意と云はねばならぬ、而して其の後たる月洲先生も亦偉い人で當時の碩儒楠除先生の如き、月洲翁を以て管仲と諸葛孔明とを一所にしたる管葛の如き人であると稱してゐた

◆皇后宮還啓 御機嫌麗はし

十八日名古屋離宮に御一泊遊ばされたる皇后陛下には十九日午前七時四十分同驛御發車午後四時三十分東京驛御著東宮御使各皇族殿下を始め奉り文武諸官の奉迎裡に御機嫌麗はしく還啓遊ばされたり（東京特電）

◎ハーデー翁 觀菊會に召さる 拜謁仰付られん

目下來朝中の米人ハーデー翁は二十日赤阪離宮に於ける觀菊會に召されるが翁は當日特に天皇陛下に拜謁仰付らる可し（東京特電）

◎草鞋を嚙つて 五日間漂流 船員五人の命

釜山府間民洞船夫孫守贊（二五）同崎縣人藤原元次郎（三〇）の所有帆船寶榮丸（十九噸）に乘組み長崎縣下新鄉鹿兒港より船長の女房と便乘婦人一人及び船長と共に木材、薪を滿載し去る十日午前十一時頃出帆釜山に向ひたるに同日午後三時頃多太浦沖に五哩の海上を航海中暴風に際會し忽ちにして轉覆したるに因り船長は不取敢傳馬船に女二人を乘せ折柄附近に航行せる石炭船に救助を求めしも同船は危險の場合なりし爲め婦人二人を乘移らしめ其儘何れへか避難し去りたるより寶春丸乘組五人は本船を見捨て傳馬船に乘替へ風のまに／＼漂流しつゝ海上に日を暮したるが寒流は次第に激しく食物として何一物を携へぬこととて餓ゑを凌へ自分の穿き居れる草鞋を嚙りつゝ露命を繋ぎ居りしも途に風止まず漸やく五日目の午前二時頃玄海灘を貫流して長崎縣大島に漂着したるを附近に延繩漁業中なりし山口縣春野郡小串村宮川梅太郎外五名乘組の漁船に救助され十八日夜入港の連絡船壹岐丸にて歸鮮したりと（釜山）

逝けるロダン翁

◎逝けるロダン翁 ▼藝術界の偉人

◎現代 のあらゆる藝術界の恩人として崇拜の的となつて居る佛蘭西の彫刻家、フランソア、オーギュスト、ロダン翁は終に逝つた翁は千八百四十年十一月二日巴里のラルバレート街三番地に

◆ノルマンデー出の父と巴里生れの母◆

との間に生れた十七歲の時美術學校の入學試驗に三度共失敗した事など彼が後來發揮した藝術的傾向と合せて其表現法が如何に獨創的で新機軸の

◎萌芽 を含んで居たか推察する事が出來る、其後學校を斷念して、バリイと云ふ彫刻家に就て一年ばかり學んだが貧乏人の彼は自活の餘儀なくさせられて或彫刻家の裝飾彫刻の助手として廿四歲迄働らいた

◆其年例の有名な『鼻かけの人』を作り◆

多大の期待を以て其年のサロンに送つたが見事に跳ねられた、然もこれより十四年後のサロンに出品した時は近代彫刻の傑作として賞讃を博した、其後又彼はベルヅの

◎助手 となつたり、伊太利、白耳義を旅行して一步一步研究の步を進め三十七歲の時、黃銅時代『原始の人』を製作して、サロンに出品したが其內『原始の人』は餘に寫實的の作であつたから

◆實物の人間より型を取つたのでは◆

あるまいかと云ふ議論が盛んで此れが解決する迄三年間と云ふものは非常に苦境に陷つた、然し此の汚名が全く洗ひ去られるや、彼の名聲は一時に高くなつて今日迄持續して、ミケール、アンゼローの

◎再生 とまで稱せられてゐる最近歐洲戰爭に際し佛國市民を代表して英國政府に自作廿八點を贈り兩國人の膠漆を一層堅くした事など有名な話である

◆日本では翁の展覽會を開催する筈で◆

駐佛日本大使館と吾外務省との間に交涉が有つたが保險料さへ數萬金を要する次第でとう／＼作品に接する事が出來なかつたのは返す／＼も殘念である、唯白樺社同人が浮世繪を贈つた返禮として三點其後一點小さい

◎殘體 を送つて來た、日本にとつては貴重な寶物であらう、今や巴里郊外ムウドンの田舍見晴らしのいゝ丘の上のサク、デブリイヤンの邸宅に橫はつた大偉人を偲んで直接間接に教へを受けた世界のあらゆる藝術家は深い感慨に沈んでゐる事であらう。行年八十七歲。

◇◇虎と喇叭手

喇叭の音をお屁と間違へて虎の狂死

これは隨分滑稽な話だが、昔し或る朝鮮の喇叭手が郡主からの命令を受けて夜或る處へ使に往つた。ところが先生は歸りに酒屋に入つて一杯二杯とやつたゐる中にすつかり

◎醉つて 了つた酒屋を出るのが實に辛いけれども郡守に復命をしなければならない、大切な役目があるから、惜しい別れをして酒屋を飛出した。そして朝鮮の傳音樂隊が使てゐる樣な例のあの長い喇叭を肩に擔ひで八つ當りの千鳥足で郡廳を差して歸つて來たところがあまり醉過ぎたので遂々路傍の石塊を枕にぐつすり寢込んで了つた。やがてもう好い加減に醉も醒めて來て醉醒めの水が欲しくなる時分に

◎何物か と濡れた雜巾で自分の顏をペチャリ／＼と叩くのであつた。ハテそれは何物の惡戲だらうと思つて眼を細く開けて見るとそれは如何にそれは濡れた雜巾でなく、大きな虎が尻尾に水を付けて自分の顏を叩くのであつた。そして自分の醉の醒めるのを待つてゐる樣子であつたから先生は肝を潰した。しかし虎といふものは死人や寢人や醉拂ひの酒の醒めない內には決した食べるものでないといふ事を知つてゐるからワザと高鼾を掻いて寢てゐる風を見せた。すると虎は川に往つて尻尾に水を濡らして持つて來ては叩き／＼した。そこで先生は一策を案じて虎が尻尾を濡らしに往く處を睥さすその尻の穴を狙つて力に任せて喇叭を突き込んだ。虎は

◎不意打 を喰つてあまり驚いた機みにブット御屁を放つたると自分の御尻からプーと大きな喇叭の音が鳴つた。そして息をする度には尻からプー／＼と喇叭の音がするので虎は氣が狂つて遂に死んで了つた。そこで喇叭手は怪我もせず復命を完うし、御負に虎まで捕へたといふので褒賞を沢山貰つたとか。

◎倉庫俄然崩壞 鮮人三名負傷す

十九日午後一時頃平壤竹園町松岡酒造店にて俄然新築中の倉庫崩壞し折柄從業中の鮮人三名は避くるに暇なく重傷を負へり負傷者は直ちに慈惠病院に收容應急手當を受けしが崩壞の原因は昨今の寒氣にて地盤弛み建物が死の重味に堪へ得ざりし爲めならんと（平壤電話）

◎虎二頭現る 高原郡內に

◎宮田隊急行す

咸南高原郡山谷面舍山里に於て虎二頭現はれ犬及び豚を襲ふ旨水洞憲兵出張所より征虎軍第一隊長宮田富三郎に通知ありたるより同隊は二十日同方面に向け急遽出發是を退治する手筈なり一行は十九日夜永興從九山に向へり（永興電話）

◎際どい處で 衝突を免る 命拾ひの視察團

十九日午後一時三十分鎮南浦發平壤行列車が黃州驛に向つて進行中鎮南浦驛より石炭を滿載せる貨物列車進行し來り危く兩車衝突せんとしたるが兩機關手必死の働きに依り約二十間の際どき處にて停車せし爲め幸ひに無事なるを得たり右列車には過般總督府主催滿洲學事視察團の一部が鎮南浦神祭を了への歸途乘車し居たるが幸ひに命拾ひをしたりとて大評判なり（平壤電話）

◎金剛山の盜掘 團減少す

內金剛毘盧峰附近に於ける水鉛坑の重石の盜掘は一時甚だ盛にして殆ど手の附け樣なき迄に跳梁を逞ふせしが其の後上司の嚴命に依りて各隊署は嚴重に是れが根■

◎新彰組合の篤志

新彰組合にては慈善演藝會を開催し其の收入金一百圓を內地水害救恤金として京城府尹の手を經て送附せりと

◎屍體漂着

龍山元町四丁目下の漢江岸に十八日年齡二十二三歲位の鮮人男の溺死體漂着せり憲兵出張檢視せしが他殺の疑ひなく屍體は假埋葬に附す

朝鮮の田舍と醫藥

（一）◇療養の不便◇

朝鮮で鐵道の沿線を離れて奧地の部落に這入つて行つて先づ最も不便を感ずるのは旅館の尠いことである、けれど豫て覺悟の前で行けば朝鮮人宿でも

▽南、蟲さへ 我慢すれば身體の壯健な時には別に痛痒がないが、一度人煙稀れな山奧の淋しい部落で病氣に罹つた日には意外な窮迫を見ることがある、殊に惡性の傳染病などであれば

▽一層のこと である、曾つて田舍の地方に出張中に發病した爲に手當を受くるには醫師も藥もない爲め作薄極めて內におたたにて一命を殞したものや、汽車沿線迄出て來る內に絕命して

▽悲慘の最後 を遂げたと云ふ實例は決して珍しくない、元來朝鮮人が田舍育ちの者に斯うした太古に近い不便の天地に發育されて壯健の者ばかり生れながらに體格のれてゐる爲め生き殘り

▽天性痛搦の 者は自然淘汰で多く早死してゐるから、今日大人に迄成長してゐる者は此の自然の風雨寒暑を凌過してゐる者ばかりである、然るに

▽氣候の適順 な內地で育つた內地人は恰かも溫室育ちの盆花を見たやうなもので是が氣候の變調の激しい朝鮮に渡つて來れば俄に內海から外洋の荒波に乘り出した小舟のやうに

▽自然の氣候 風水に飜弄されて忽ち病魔の襲ふ所と成り易い、爲めに先づ內地人であつて山村僻阪の部落に出掛けやうとする人は先づ其の土地に醫師の

▽有無を訊く ことが常である茲には斯樣な人々の參考迄に朝鮮の醫療機關なるもの丶現況を述べて多少の資料に供することとする

運動界

◇京俱軍捷つ 豫報の如く京城俱樂部對鐵道俱樂部の野球仕合は十七日龍山鐵道グラウンドに於て擧行されたが曩に篠崎商店の主催にて擧行したる全鮮野球仕合の際抽籤の結果其手合せを見ず遂に鐵道俱樂部をして名を成さしめたので今回の仕合は好球家より多大の興味を以て迎へたれ入場者約五百名に達したるが付合の結果は六對十アルアー附にて京城俱樂部の大勝に歸し午後四時半終了した

げえむ

◎浪花館 二十日より喜劇喜仙會一行にて開演すべく藝題は毎日替へにて初日一思ひ合せ二幕、二番目■三番目步三場等にて入場料は一等十五錢二等十錢なりと

◎大正館 大阪所藏の新派悲劇孔雀草

◎竹樂館 世界的の大冒險探偵航艇の秘密にて途に好評を博し大入なつゞけ居れり

◎大好館の下に十九日を以て全編な終りたるが早川一座は上旬より上京 小林商會ひにユニヴァーサル社と打合せ中なるが以て十二月上旬には著名樂館に上場すべしと

◉天津水害義助會

……テルに都下新聞通信社代表者を招き報告會を開けり誘は男は同胞の窮境を救ふは勿論、隣邦人を慰藉し以て日支親善の實を示すは最も……連絡を保つ可し本會成立の經過を述べ次に小幡外務省……務局長は天津水害の現狀に就きて述べ更に小田切正金取締役は大要左の如き實地視察談を試……目下極力排水中なるが豫定に從へば本月下旬には排水し終る筈なれども排水後の復舊整理には多大の費用と勞力を要す可し更……可く明春の解氷後に至りては惡疫の流行等其慘害更に甚しき者あらん支那政府は目下治水事業の爲め五百萬圓の借款を進行せし

母乳分泌催進の効ある新滋養劑レグモン

◉レグモンは日本人の体質に最も適合する植物性蛋白質を基本とした國産滋養劑にして
◉京都醫科大學教授森島博士より有効滋養劑として推奬せられ又山下、林恒次、吉澤の四醫學士は多數の衰弱したる患者に用ひて甚だ有効なる滋養劑たるを實証せられたるものなり

【容器】二百五十入 金壹圓貳拾錢 / 二百五十入 金貳圓拾錢 / 四百五拾五入 金四圓五拾錢

一手販賣元 大阪市東區道修町 武田長兵衞

最大德用の燃料

石炭 木炭 煉炭 代用品

瓦斯コークス

京城電氣株式會社製

價格低廉火力旺盛煙筒掃除を省く燃に付よき
壹噸 二十九圓（持込共）
壹叺 一圓三十錢（持込共）

一手販賣店
京城旭町一丁目 戸澤商店 電話九八四番
京城旭町一丁目 橫山屋商店 電話貳參五番

大賣出し
十一月廿一日より廿五日迄（五日間）
新流行
ショール
肩掛
毛布
正札より一割引
京城本町一丁目 まるからんや支店 電話四七番

淋疾內用
ブレノリン
ドクトル松本高一郎先生の創案により製出したる本品は速に體內に吸收分解せられて尿に強烈なる殺菌防腐性を與へ兼て尿量增加の作用あり、而して胃腸障害其他の副作用なきを特色とす。
急性 慢性 淋疾 膀胱加答兒 等に賞用せらる。
宇野博士、緒方博士、櫻根博士は本品に對する治驗報告を發表せられたり。文獻贈呈す。
丸及錠劑の二種あり 各地有名藥舖にあり
東京室町 三共株式會社

櫻御殿

第七十二回　大阪　霞の家主人

安藝の月（十二）

『すると、三左衛門よりは、むしろ腹切つた伊奈圖書が殘念であつたかの』

清之丞は笑ひながら云ふ

『勿論御うぢや、元來が圖書の係[illegible]せぬ事、ぢやに由つて内府公から[illegible]三百人の足輕に腹切らせる、其[illegible]納得致すようとの御叡ひがあつ[illegible]のぢや』

助左衛門はこれを始めに、圖書が敢なく切腹した事情を詳しう語[illegible]つた、清之丞は三左衛門の最後に[illegible]蓑のあつたのを歎ぶと、前刻から默つて聞いて居た

采女の眼に涙が浮ぶ、それを他に見せまじく横へ向いてそつと拭ふ

その樣を清之丞はちらりと見た、圖書の最後の無慘にも憐れであつたのを聞いて、無念の涙を浮めるのは、そも何者の子であらうと心に訝かる

けれど口へ出して問ふ事ではない、故意と采女の胸へ白刄を當てるような口上して

『然し、何ぢやの、圖書とやら云ふ役人も、ちと意注が不足したの、それを何故とお云やれ、假し、己は扱はずとも、侍從様の御氣質位は、配下の番卒に云ひ開けて置きさうなものぢやござらぬか』と云つた

『さうは參らぬ、圖書とても神ではないで、そこへ三左衛門が參らうとは存ずまいぞ』

『存せぬからとて、其邊の事を云ひ付けるのが上に立つ者の役目ぢや、假令己が腹切つたればこそ宜けれ、内府様のお扱ひ通り三百人の番卒が腹切つたら、おのれは何うする心でござらう、下の落度は上の落度、下々に犬死させて、だまつては居られまい、するとやつぱ[illegible]も是非ならぬ、侍從様が強い[illegible]御仰せなされたばかりで、内府[illegible]に三百人の番卒をお拾ひなされ[illegible]たやうなものぢや』

『御う云へど御うも取れるが、圖書に内府様の御慈悲、内府様に取つては、大切な御家人でござるわい、その御慈悲が、三左衛門の爲に破れた、三左衛門は我等の義兄弟、二百五十石の身上で、一萬五千石の命と取り替へたは手柄、其死花を咲かせ居つた、お互ひに羨ましい最後であつたの』

清之丞は努めて圖書を貶しめるように云つて、鋭い目を采女に付ける、采女は圖書を惡く云はれるたび、胸も張り裂ける思ひをして、きりくと齒を噛むのが、深い仔細を語る如くに見れた

『それにつけても、侍從様の御威勢の盛んなのが思はれる、もし侍從様を御主人に持つて居ずば、三左衛門は犬死ぢや』

『勿論々々、貴公も熟くは知るまいが、關ケ原の御勝利は、侍從様のお蔭ぢや、侍從様が無かつて見い、内府公は箱根から西へお出なる事は爲きまい、その侍從様の御無理ぢやもの、お聞きなされいで何うならう』

『然し、清之丞、油斷はならぬぞ、内府様は侍從様の我儘を、根に持つてお在でぢやといの』

『果して御うか、わしも内々之れを懸念して居たのぢや』

『たしかには分らぬが、專らの沙汰ぢや、どうか事が起らねば好いがのう』

と云ふ時、庭の柴折戸を外から開けて

名刺　太平堂　電話二七一二　振替京城二三六七

出す

『御免なされ、道齋でござる』と聲[illegible]

『おゝ、道齋、好い處へ參つた、助左衛門も來て居る、まあ入れ』

『これは珍らしい』と道齋は其前へ進み寄つて、采女もお供か、[illegible]きうなつたの』

『道齋には久しう會はぬ、まづ上れ、さ、今浮世噺が機んで居る』

助左衛門は座を讓るようにした

道齋は膝行あがる

采女は何時の間にか手生に徒て、叮嚀に挨拶した

京城本町　千代田號印鋪　電話九八七番

［大演習陪觀］　中谷竹籟

うらくと夕日うすづく野の末に喇叭鳴り御旗歸りゆく見ゆ

柿の木に柿の實あらず人登り演習見るに秋の日の照る

時雨るれば雲去來して川の色老り黒ずみ軍馬嘶く

陪觀途上吟　幸公

踏切に菊造りてあり行軍田鴨の群れ森に動かず戰さ時

日報俳壇

秋季雜詠（三）　山紫坊

敗殘の城趾踏けき尾花哉　同
子女集ふ騷香の門や天の川　同
人里の微かに見て芒かな　同
豚小屋の素人普請や啼く蚯蚓　同
挑拋し去る友が心事や夜寒　同
雨漏りの屋根裏傳ふ夜寒哉　同
薮を隔て酒造の田中立・寒山子　同
湖に臨む禿山低し今日の月　同
夜仕事に籾摺る月の小村哉　同
里の夜は唯更けさ砧かな　同
出水引き砂に埋れて蕎麥の花　未刀
石船を曳きる人數や蕎麥の花　同
川あれば船板橋や蕎麥の花　同
鈴虫の切りくに啼く雨夜哉　馬骨
秋風に腹吹かれ飛ぶ燕哉　枯川
秣運ぶ父に燭持つ夜寒哉　楚山
蔵に鳴き子曳き去る小供哉　要村

［京義新車］　靜軒

[illegible]

少女畫報の好評　[illegible]京橋東京社發行の『少女畫報』十二月[illegible]

大阪期米

十九日後場　[illegible]

仁川大豆取引所

[illegible]

大阪三品

[illegible]

新刊紹介

[illegible]

京日案内　普通　番外

店員入用　十六歳より廿歳位の身體健全なる人要保證人本人來談　京城本町二丁目酒醬油釀造場　40

店員數名募集　二十歲前保證人を要す　京城蓬萊町三丁目　47

百貨受付　御報參上　明治町通　野村書店　電話三〇五〇番　7

簿記實踐教授　實踐簿記專修學院　京城長谷川町八九金谷園側　65

譲店　本町通り目抜の場所利益確實なる菓子店有の儘至急譲る希望の者は京城三浦旅館へ來談あれたし　47

恩給年金立替　五年半利一年　京城若草町　國江商會　電話三三九一番　791

銃砲火藥獵具　京城本町三丁目　増戸銃砲店　電話二〇九二番　764

年金恩給低利立替　五年半迄保險不要　京城永樂町　即時　江州屋本店　770

給仕募集　十五歳以上本人來談　京城明治町一丁目　日韓印刷會社　55

藥局　諸大醫處方箋調劑　純良藥品有名賣藥販賣　京城本町通櫻井町入口　宮本粒堂　電話一三七〇　65

子宮病血之道の特効藥大正婦人湯とニシタンポン

(47)

婦人花柳病は誰しも秘密にしたがる、まして醫師に診察を受けるには、どうしても恥しい局部を見せなければならぬ、又其れを恐ふても[illegible]適當の醫師が無いとか、多くの費用が掛るとかで、つい治療を怠り殊に慢性の人は格別の苦痛を感じないので、今日は明日はと不快に日を送つて居る中終に[illegible]しの付かぬ樣になる人が多い、[illegible]

大正婦人湯と

名づけて發賣したのである、本藥は從來の浸劑[illegible]

婦人藥として

恐らくこのやうな親切な藥は他に求める事は[illegible]

ニシタンポン

[illegible]

大正婦人湯　[illegible]

ニシタンポン　[illegible]

東京市京橋區南傳馬町　大正製藥株式會社

白粉中の白粉、塗けて普通のおしろいとは白さが異ふホーカー白粉

露叮・生地から美しく白く、塗く外にない[illegible]の白粉・度お試し下さい　定價[illegible]　本舗東京日本橋　振替東京一五六八　堀越嘉太郎商店

胃病によく効く　健胃消化劑　ゴルフ

高峰博士發見ノ有名ナル消化劑タカヂアスターゼヲ主藥トシ他ノ貴重胃藥數種ヲ配合ス

定價　四十錠入　金貳拾錢　百錠入　金四拾錢　三百錠入　金壹圓

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目十番地　泰昌製藥株式會社

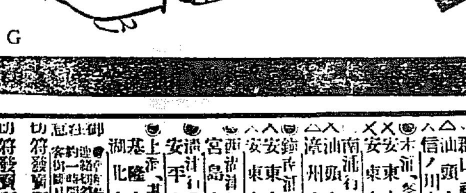
七大醫學博士の賞讃と證明ある純生粹葡萄酒

友白髮まで長壽延命　老人も若返るく

美味滋養の葡萄酒　赤玉ポートワイン

「朝夕の一杯は百藥に優る」

赤玉ポートワインは美味滋養に富める葡萄酒にしてその豐富なる營養分は健胃、補血、興奮、强壯の目的を完全に達せしめ常に用ふれば、老衰を防ぎ精力を增進し老人も眞に若返る葡萄酒赤玉ポートワインを朝夕欠さかず召上れ



一夜でナヲル　かぜ藥

せきにもヨクキク　ツムラの風藥　消熱散

試驗はタツタ朝まで八時間

定價十錢、廿錢、五十錢、一圓、取次各藥店　本舗　東京日本橋通三　津村敬天堂

急告

近來同業者中に弊社の名を詐稱し電話又は訪問等を強請する者有之候間注意の御用命は必ず弊社へ直接御電話の上一御用命を賜はり度候　京城葬儀社　電話一五六七番

瑞巌義方　金泉間自動車著發時刻

居自動車部　金泉支部

大阪商船　仁川出帆

日本郵船　仁川出帆

[illegible]

釜山出帆廣告

門司、神戶、大阪行　和泉浦丸　十一月廿一日午後五時出帆

尼崎汽船　仁川出帆

阿波共同汽船　仁川出帆　共同丸

朝鮮郵船　出帆

[illegible]